

公立大学法人岡山県立大学
第3期中期目標期間終了時に見込まれる
業務の実績に関する評価結果
最小項目別評価

令和5年7月

岡山県地方独立行政法人評価委員会

目 次

1 法人の概要		第3 業務運営の改善及び効率化等に関する目標を達成するためとるべき措置	
(1) 名称	P- 1	1 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	
(2) 所在地	P- 1	(1) 機動的かつ効率的な運営体制の構築に関する目標を達成するためとるべき措置	P-30
(3) 法人設立の年月日	P- 1	(2) 地域に開かれた大学づくりの推進に関する目標を達成するためとるべき措置	P-32
(4) 設立団体	P- 1	2 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	
(5) 中期目標の期間	P- 1	(1) 自己収入の増加に関する目標を達成するためとるべき措置	P-33
(6) 目的及び業務	P- 1	(2) 運営経費の見直しに関する目標を達成するためとるべき措置	P-35
(7) 資本金の額	P- 1	3 自己点検及び評価に関する目標を達成するためとるべき措置	
(8) 代表者の役職氏名	P- 1	(1) 評価の充実に関する目標を達成するためとるべき措置	P-36
(9) 役員及び教職員の数	P- 1	(2) 情報公開の推進に関する目標を達成するためとるべき措置	P-37
(10) 組織図	P- 2	4 その他業務運営に関する目標を達成するためとるべき措置	
(11) 法人が設置運営する大学の概要	P- 3	(1) 施設及び設備の適切な維持管理に関する目標を達成するためとるべき措置	P-38
(12) 理事長メッセージ	P- 4	(2) 安全・安心な教育研究環境の確保に関する目標を達成するためとるべき措置	P-39
2 中期目標期間終了時に見込まれる業務の実績に関する総括		4 中期目標期間終了時に見込まれる業務の実績に係る項目別評価結果表	P-40
(1) 総合的な評定	P- 5		
(2) 評価概要	P- 5		
(3) 実績をふまえた運営上の方針・戦略等	P- 5		
3 中期計画の各項目ごとの実施状況			
第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置			
1 教育に関する目標を達成するためとるべき措置			
(1) 教育内容の充実に関する目標を達成するためとるべき措置	P- 6		
(2) 教育方法等の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	P-12		
2 学生の確保に関する目標を達成するためとるべき措置	P-14		
3 学生の支援に関する目標を達成するためとるべき措置			
(1) 学習支援の充実に関する目標を達成するためとるべき措置	P-16		
(2) 生活支援の充実に関する目標を達成するためとるべき措置	P-18		
(3) 就職支援の充実に関する目標を達成するためとるべき措置	P-20		
4 研究に関する目標を達成するためとるべき措置			
(1) 研究の充実に関する目標を達成するためとるべき措置	P-23		
(2) 多様な研究活動の展開に関する目標を達成するためとるべき措置	P-24		
(3) 研究成果の還元に関する目標を達成するためとるべき措置	P-26		
5 地域貢献に関する目標を達成するためとるべき措置			
(1) 地域連携教育の充実に関する目標を達成するためとるべき措置	P-27		
(2) 地域貢献活動の充実に関する目標を達成するためとるべき措置	P-28		
6 グローバル化に関する目標を達成するためとるべき措置	P-29		

1 法人の概要

(令和5年5月1日現在)

- (1) 名称
公立大学法人岡山県立大学
- (2) 所在地
岡山県総社市窪木111番地
- (3) 法人設立の年月日
平成19年4月1日
- (4) 設立団体
岡山県
- (5) 中期目標の期間
平成31年4月1日から令和7年3月31日
- (6) 目的及び業務
- ア 目的
公立大学法人岡山県立大学は、人間を取り囲むさまざまな環境の中で調和のとれた発展を期し、地域の課題や社会の要請に的確に応えるため、「人間・社会・自然の関係を重視する実学を創造し、地域に貢献する」ことを基本理念とする。
この理念に基づいて、学術の進展と教育の振興を図り、福祉の増進、文化の向上、地域産業の発展等に寄与する研究活動に取り組むとともに、知性と感性を育み、豊かな教養と深い専門性を備えて新しい時代を切り拓く知識と高度な技術を身につけた実践力のある人材を育成する。
- イ 業務
- (ア) 岡山県立大学を設置し、これを運営すること。
(イ) すべての学生に対し、修学、進路選択及び心身の健康等に関する相談など学生生活に関する相談その他の援助を行うこと。
(ウ) 民間企業や試験研究機関等との間の共同研究や受託研究、技術指導等を実施するなど、法人以外の者と連携して教育研究活動の推進に取り組むこと。
(エ) 地域社会に貢献するため、公開講座を開設する等、地域住民に幅広く学習機会を提供するとともに、大学における研究の成果を普及し、及びその活用を促進すること。
(オ) 前各号に掲げる業務を効果的かつ効率的に実施するため、附帯して必要となる関連業務を行うこと。
- (7) 資本金の額 120億 9,163万 2,943円
- (8) 代表者の役職氏名
理事長 沖 陽子
- (9) 役員及び教職員の数
- ア 役員
- | | |
|------|----|
| 理事長 | 1人 |
| 副理事長 | 1人 |
| 理事 | 3人 |
| 監事 | 2人 |
| 役員計 | 7人 |
- イ 教職員
- | | |
|------|----------------------|
| 学長 | 1人 |
| 教員 | 150人 (特任教員を含む専任教員数。) |
| 職員 | 56人 |
| 教職員計 | 207人 |

(10) 組織図

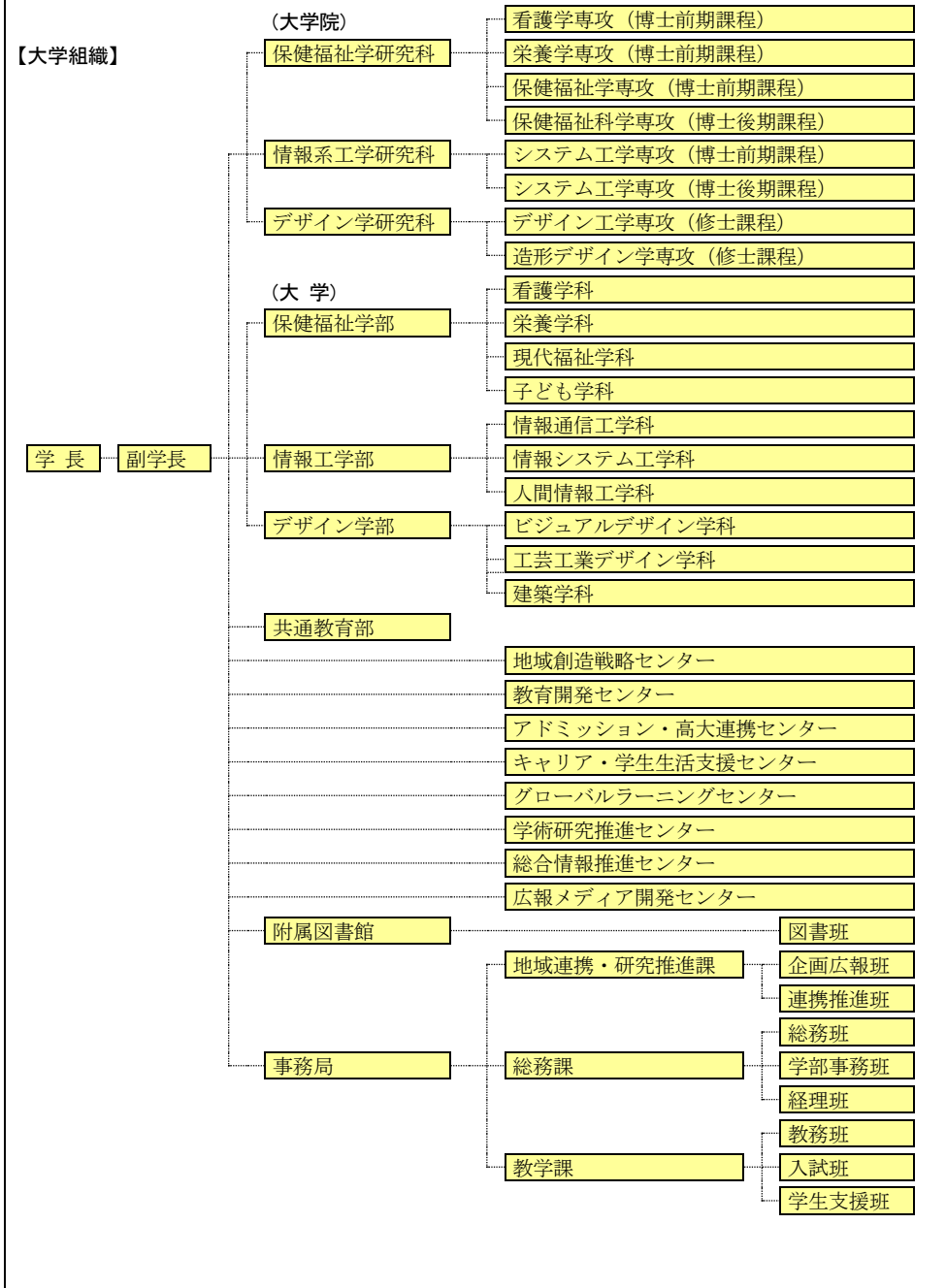
【法人組織】

役員会		
理事長	沖 陽子	岡山県立大学学長
副理事長	中村 賢三	岡山県立大学事務局長
理事	松田 正己	(株) 山陽新聞社代表取締役社長
理事	五福 明夫	岡山県立大学副学長 (教育・学術研究担当)
理事	佐藤 洋一郎	岡山県立大学副学長 (社会連携・国際担当)
監事	井上 信二	公認会計士
監事	大土 弘	弁護士

経営審議会		
議長	沖 陽子	公立大学法人岡山県立大学理事長
委員	中村 賢三	公立大学法人岡山県立大学副理事長
委員	佐藤 洋一郎	公立大学法人岡山県立大学理事 (社会連携・国際担当)
委員	晝田 眞三	ヒルタ工業 (株) 代表取締役会長
委員	中島 義雄	(株) システムズナカシマ代表取締役社長
委員	梶谷 俊介	岡山トヨタ自動車(株)代表取締役社長
委員	則武 直美	岡山聖園子供の家施設長

教育研究審議会		
議長	沖 陽子	公立大学法人岡山県立大学理事長
委員	中村 賢三	公立大学法人岡山県立大学副理事長
委員	五福 明夫	公立大学法人岡山県立大学理事 (教育・学術研究担当)
委員	佐藤 洋一郎	公立大学法人岡山県立大学理事 (社会連携・国際担当)
委員	伊東 秀之	岡山県立大学副学長 (入試・広報担当)
委員	近藤 理恵	岡山県立大学保健福祉学部長
委員	尾崎 公一	岡山県立大学情報工学部長
委員	北山 由紀雄	岡山県立大学デザイン学部長
委員	末岡 浩治	岡山県立大学共通教育部長
委員	高橋 吉孝	岡山県立大学附属図書館長
委員	山下 広美	岡山県立大学保健福祉学部教授
委員	松浦 洋司	岡山理科大学副学長
委員	村田 芳行	岡山大学教授

【大学組織】



(11) 法人が設置運営する大学の概要

大学の名称	岡山県立大学				
大学本部の位置	岡山県総社市窪木1 1 1 番地				
学長の氏名	沖 陽子 (公立大学法人岡山県立大学理事長)				
学部等の名称	修業 年限	入学 定員	収容 定員	開設年度	備 考
保健福祉学部	年	人	人		
看護学科	4	40	160	平成5年4月	
栄養学科	4	40	160	平成5年4月	
現代福祉学科	4	35	140	令和3年4月	学科再編
子ども学科	4	25	100	令和3年4月	〃
情報工学部					
情報通信工学科	4	50	200	平成5年4月	
情報システム工学科	4	50	200	平成5年4月	
人間情報工学科	4	40	160	平成27年4月	名称変更
デザイン学部					
ビジュアルデザイン学科	4	30	120	令和3年4月	学科再編
工芸工業デザイン学科	4	30	120	令和3年4月	〃
建築学科	4	30	120	令和3年4月	〃
保健福祉学研究所 (博士前期課程)					
看護学専攻	2	7	14	平成9年4月	
栄養学専攻	2	6	12	平成9年4月	
保健福祉学専攻 (博士後期課程)	2	7	14	平成9年4月	
保健福祉科学専攻	3	5	15	平成15年4月	定員変更
情報系工学研究科 (博士前期課程)					
システム工学専攻	2	52	104	平成25年4月	専攻再編
(博士後期課程)					
システム工学専攻	3	6	18	平成11年4月	
デザイン学研究所 (修士課程)					
デザイン工学専攻	2	7	14	平成22年4月	専攻再編
造形デザイン学専攻	2	9	18	平成22年4月	〃
附属施設等	附属図書館 共通教育部				
学生数	1, 753人				
教員数	150人 (特任教員を含む専任教員数。)				
職員数	60人				

【大学の沿革】

平成 5年 4月	開学 (保健福祉学部・情報工学部・デザイン学部、短期大学部)
9年 4月	大学院 保健福祉学研究所 (修士課程)、情報系工学研究科 (修士課程) 設置
10年 4月	大学院 デザイン学研究所 (修士課程) 設置
11年 4月	大学院情報系工学研究科 (博士後期課程) 開設
12年 6月	共同研究機構設置
14年 4月	保健福祉支援センター設置 メディアコミュニケーション支援センター設置
15年 4月	大学院保健福祉学研究所 (博士後期課程) 設置
15年 6月	サテライトキャンパス設置 (平成18年7月廃止)
17年 8月	全学教育研究機構設置
17年10月	地域共同研究機構設置 (令和2年3月廃止) 共同研究機構を産学官連携推進センターに名称変更 (令和2年3月廃止) 保健福祉支援センターを保健福祉推進センターに名称変更 (平成29年3月廃止) メディアコミュニケーション支援センターをメディアコミュニケーション推進センターに名称変更 (平成24年3月廃止)
18年 4月	情報工学部 スポーツシステム工学科設置 デザイン学部 学科再編 (デザイン工学科・造形デザイン学科設置)
19年 3月	短期大学部閉学
19年 4月	公立大学法人岡山県立大学設立 保健福祉学部 保健福祉学科改組
20年 4月	健康・スポーツ推進センター設置 (平成27年3月廃止)
22年 4月	大学院 情報系工学研究科人間情報システム工学専攻 (博士前期課程) 設置 大学院 デザイン学研究所 (修士課程) 再編 (デザイン工学専攻、造形デザイン学専攻設置)
23年 4月	認定看護師教育センター設置 (平成28年3月廃止)
24年 4月	福祉・健康まちづくり推進センター設置 (平成27年3月廃止)
25年 4月	保健福祉学部 保健福祉学科再編 (社会福祉学専攻、子ども学専攻設置) 大学院 保健福祉学研究所 (博士前期課程) 看護学専攻再編 (保健師国家試験受験資格取得) 大学院 情報系工学研究科 (博士前期課程) 再編 (システム工学専攻設置)
26年10月	大学教育開発センター設置 国際交流センター設置

27年 4月	情報工学部 スポーツシステム工学科を人間情報工学科に名称変更 全学教育研究機構を共通教育部に名称変更 教育研究開発機構設置（平成31年3月廃止） 総合情報機構設置（平成31年3月廃止） 情報基盤活用推進センター設置 広報メディア開発センター設置 地域連携推進センター設置（令和2年3月廃止）
27年10月	学術研究推進センター設置
28年 4月	副専攻「岡山創生学」設置 COC+推進室設置
28年12月	学生支援室（SAS）開設
31年 4月	キャリア・学生生活支援センター設置 大学教育開発センターを教育開発センターに名称変更 情報基盤活用推進センターを総合情報推進センターに名称変更
令和 2年 4月	地域創造戦略センター設置 アドミッション・高大連携センター設置 国際交流センターをグローバルラーニングセンターに名称変更
令和 3年 4月	保健福祉学部 学科再編（現代福祉学科・子ども学科設置） デザイン学部 学科再編（ビジュアルデザイン学科・工芸工業デザイン学科・建築学科設置） 副専攻「岡山創生学」を「岡山創生学課程」に名称変更 副専攻「吉備の杜クリエイター課程」設置 副専攻「吉備の杜プロデューサー課程」設置 地域創造戦略センター吉備の杜推進室設置

(12) 理事長メッセージ

平成31年4月から始まった第3期中期目標は、すでに4年間の業務実績が積み重ねられた。この4年間の評価を基に第3期中期目標期間終了時に見込まれる業務の実績に関する報告書を作成した。令和4年度の単年度の自己評価は総じて令和3年度より低かったが、本自己評価は「大学の教育研究等の質の向上」において、過去4年間で最高値を得た令和3年度と同等の平均値である。なお、今回の自己評価は2年後の希望的な値を推測して自己評価したのではなく、過去4年間の年度工程をシミュレーションして得た値である。

まず、引き続き高評価が得られたのは保健福祉学部・同研究科の教育内容の充実である。情報工学部もカリキュラムを見直し、教育内容の充実を進める。デザイン学部は各分野の専門性を明確にした教育体制が構築できる見込みである。デザイン学研究科は令和7年度の改組を目指して根本的な見直しを始めているが、終了時までには大きな改善は難しい。

教育方法については、教員のアクティブ・ラーニングの導入と学生達へのラーニングコミュニティ等の自習環境支援とうまく連動させることにより、教育の質向上が期待できる。

また、学生支援については学生の様々な悩みに対して適切に対応できる学生支援体制の構築が可能であり、学生支援コーディネーターの新設も準備が整い、学生と教職員の両者を専門的な立場から支援できるメンタルサポートも充実する。共通教育として立ちあげるキャリア教育と連携して就職支援の充実も期待され、インターンシップ科目の参加者増加に向けた取組も強化される。

最も懸念される項目は「研究」であるが、公募型研究助成事業への積極的な申請と採択数はやや増加傾向にあり、科研費採択率も年次変動はあるものの増加しているため、その傾向を維持し、さらに若手研究者支援の仕組みを取り入れ、戦略的な研究費支援も続ける。

地域貢献については、地域連携に参加する教員の参加促進や連携テーマの拡充を進め、副専攻「吉備の杜」プロジェクトの資源を生かした地域貢献を継続する。

グローバル教育に関しては、過去2年間の実績を基に、さらにグローバル環境を整備する。アフターコロナにおける留学生の受入れも活発化させる。

一方、大項目3における「業務運営の改善及び効率化等」は、いずれも「中期計画を概ね達成」と自己評価したが、自己収入の増加については、かなり努力が必要と思われる。逆に、教員の個人評価制度の運用並びに大学広報の推進は評価4に近い現状にある。特に大学広報においては、開学30周年を機に、本学のウェブサイトやSNSでの発信、各種メディアへの働きかけにより、広くPRを行うとともに、話題性のあるコンテンツの制作等、ステークホルダーの間で拡散される仕掛けづくりに取り組むことが確認されている。

懸念されているICT環境を活用した情報伝達や情報共有は、学内ネットワークシステム更新を早く完了させるとともに、情報発信・共有に関するルールの見直しを終了時までには完了するよう鋭意努力する。

2 中期目標期間終了時に見込まれる業務の実績に関する総括

(1) 大項目ごとの評定

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する事項

評定 中期目標を十二分に達成

大項目第2「大学の教育研究等の質の向上」では、評点4「十分に達成」が8項目(24%)、評点3「概ね達成」が24項目(73%)、評点2「やや未達成」が1項目(3%)であり、当該大項目に係る最小項目別評価の評点の平均値は3.2となるため、大項目別評価は⑤「中期目標を十二分に達成」の見込みとした。

第3 業務運営の改善及び効率化等に関する事項

評定 中期目標を十分に達成

大項目第3「業務運営の改善及び効率化等」では、評点4「十分に達成」が0項目(0%)、評点3「概ね達成」が18項目(95%)、評点2「やや未達成」が1項目(5%)であり、当該大項目に係る最小項目別評価の評点の平均値は3.0となるため、大項目別評価は④「中期目標を十分に達成」の見込みとした。

(2) 総合的な評定

評定 中期目標を十分に達成

第3期中期計画の4年間の実績状況と今後の活動予定を踏まえ、中期計画の進捗状況全体について総合的に判断し、期間終了時に見込まれる業務の実績に対する自己評価は「中期目標を十分に達成」の見込みとした。

(3) 実績をふまえた運営上の方針・戦略等

第3期中期目標期間が4年間経過したが、その間、令和2年度から令和4年度までの3年間はコロナ禍の影響を大きく受けた。令和元年度は第3期中期目標の初年度で、第2期中期目標にて達成されなかった項目の抜本的な見直しを行ったことで、時間的な余裕がなかったために、「やや未達成(評価2)」の項目が52項目中13項目と多かった。その後、評価2は令和2年度で9項目、令和3年度で6項目、令和4年度で8項目と変化し、終了時見込みでは自己評価を2項目とした。コロナ禍であっても、第3期中期目標の実現に向けた積極的

な姿勢が評価されたことが、我々の自信に繋がり中期計画を着実に進めていると考える。

終了時見込みにおける実績評価が低い項目は、「デザイン学研究科における大学院教育の充実」と「ICT環境を活用した情報伝達や情報共有」である。前者においては、令和7年度の改組に向けて根本的な改革を検討しており、第4期中期目標に反映される内容となる。デザイン学研究科のみならず、他の研究科においても同様に社会のニーズに沿った大学院教育の充実が本学にとって急務の課題である。これを達成することにより本学の研究力が地域や学界で高く評価されることになる。それに伴い、科研費や共同研究費等の増加が期待され、自己収入の増加に繋がる。一方、後者においては教育研究上で必須のICT環境の整備が遅れていることは本学にとって非常に大きな痛手である。期間終了時までには解決するよう努力する所存である。

令和5年に本学は開学30周年を迎えた。PR動画、キャンパスソング、オリジナルクッキー等、開学30周年記念に向けたコンテンツ、グッズの製作が進められ、UI戦略室によるブランド向上が図られている。この開学30周年を機に本学のUI自体を明確化することが今後の課題と考える。すなわち、開学30周年記念を経ることにより、大学づくりやPRに活用する本学の特色を表す要素を積み上げてブランド力の向上を進めることができると予測する。一方、令和5年度に受審する認証評価に対応することにより、内部質保証推進体制のさらなる強化が進むことが見込まれ、本学の教育研究上の長が浮き彫りにされると思われる。これらの課題を解決することにより、本学の目的である新しい未来社会をリードする地域力と人間力を身に付けた人材育成が輩出できる。

また、ブランド力の一端を担っている副専攻「吉備の杜」は、第3期中期目標期間が終了すると同時に自走化が求められる。リカレント教育も兼ねて、本学の資源が十分に発信できるよう産官学金言との協働を進めて、モデル事業となるよう努める。

今、本学に求められることは大学の魅力を可視化して、選ばれる大学として存在価値を高めることである。特色ある教育研究を打ち出し、積極的なPRにより、全国へ本学の魅力発信や認知度の向上を目指すためにも第3期中期目標を十分に達成し、第4期中期目標の策定にもこの姿勢を提案する。

3 中期計画の各項目ごとの実施状況

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 1 教育に関する目標達成するためとるべき措置
 (1) 教育内容の充実に関する目標を達成するためとるべき措置
 ア 学士教育

中期計画	実績（令和元年度～令和4年度）及び 中期目標期間の終了時の見込み	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見																																													
<p>[1] ・保健福祉学部 保健福祉学部では、地域社会や国際社会における人々の健康維持と増進に積極的に貢献できる看護、栄養、福祉、教育に関する幅広い知識と技術を修得し、専門分野に関する課題を科学的、論理的思考や分析に基づいて主体的に解決する能力を備えた人材を育成する教育を充実させる。 特に、子ども学の分野では、子どもを取り巻く複雑化する環境を理解し、福祉の視点を有する高度な就学前教育と小学校教育への円滑な接続を推進できる人材育成を目指す。</p> <p>成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 国家試験の合格率(%) <table border="1" data-bbox="123 1117 577 1348"> <thead> <tr> <th>試験名</th> <th>現状(H25～29年度平均)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師</td> <td>98.1</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>助産師</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>管理栄養士</td> <td>95.5</td> <td>96.0</td> </tr> <tr> <td>社会福祉士</td> <td>79.6</td> <td>80.0</td> </tr> </tbody> </table>	試験名	現状(H25～29年度平均)	目標	看護師	98.1	100	助産師	100	100	管理栄養士	95.5	96.0	社会福祉士	79.6	80.0	<p>[1] ・保健福祉学部 各学科において、カリキュラムを通して国家試験対策に取り組みつつ、社会福祉士国家試験の対策講座を新設する等の充実を図り、高い合格率を維持した。 社会福祉学と教育学の教育体制を専門化するために、保健福祉学科を現代福祉学科と子ども学科に再編し、地域包括支援に関する教育を新たに取り入れた看護学科とともに新カリキュラムでの教育に取り組み、その進捗状況の点検を継続している。 副専攻「吉備の杜」、地域包括ケアに関わる教育、菜園を利用したエディブル教育等の地域と連携した専門教育を充実させた。また、協定校をはじめとした海外の大学の学生や教員、海外で活動する客員教授らと学術交流を実施する等、グローバル教育を推進した。 今後も国家試験対策や、地域連携、グローバル教育の推進とともに、時代のニーズに応じた各学科の新しい方向性を検討し、専門教育の充実に取り組む。</p> <p>成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 国家試験の合格率(%) <table border="1" data-bbox="667 1117 1444 1337"> <thead> <tr> <th>試験名</th> <th>目標</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師</td> <td>100</td> <td>97.7</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>助産師</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>管理栄養士</td> <td>96.0</td> <td>94.3</td> <td>97.9</td> <td>100</td> <td>90.2</td> </tr> <tr> <td>社会福祉士</td> <td>80.0</td> <td>82.5</td> <td>67.5</td> <td>76.3</td> <td>86.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>[評価時の観点] 高い国家試験合格率を維持できており、時代のニーズに応じたさらなる専門教育の充実により、中期目標を達成できる見込みである。</p>	試験名	目標	R1	R2	R3	R4	看護師	100	97.7	100	100	100	助産師	100	100	100	100	100	管理栄養士	96.0	94.3	97.9	100	90.2	社会福祉士	80.0	82.5	67.5	76.3	86.7	4	4	高い国家試験合格率を維持するとともに、時代のニーズに応じた専門教育の充実を進めており、評価できる。
試験名	現状(H25～29年度平均)	目標																																															
看護師	98.1	100																																															
助産師	100	100																																															
管理栄養士	95.5	96.0																																															
社会福祉士	79.6	80.0																																															
試験名	目標	R1	R2	R3	R4																																												
看護師	100	97.7	100	100	100																																												
助産師	100	100	100	100	100																																												
管理栄養士	96.0	94.3	97.9	100	90.2																																												
社会福祉士	80.0	82.5	67.5	76.3	86.7																																												

中期計画	実績（令和元年度～令和4年度）及び 中期目標期間の終了時の見込み	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見
<p>[2] ・情報工学部 情報工学部では、第4次産業革命の中核をなす情報工学に加え、電子通信工学、機械システム工学、人間工学に関する幅広い知識を活用し、人間・社会・自然との調和を図りながら超スマート社会及び地域産業の持続的発展に貢献できる未来志向の技術者を育成する教育を充実させる。</p>	<p>[2] ・情報工学部 教育内容の充実を図るため、学部将来構想を断続的に検討し、岡山県立大学協力会と協働で開講する「技術者と社会」をはじめとした県内企業と連携した専門教育、数理・データサイエンス・AIカリキュラム（応用基礎レベル）に準じた授業内容の整備、海外インターンシップの実施、カリキュラムの充実に努めた。 愛媛大学工学部との学部間協定の締結や、文科省enPiT事業への参加による大学間連携など、他大学の学生と協働した学びを取り入れた。 岡山県立大学協力会やシステムエンジニアリング岡山と連携した企業説明会を開催し、専門分野を生かした進路選択や就職活動の支援を行った。 今後も企業や他大学との連携も含めたカリキュラムの充実に継続するとともに、早期化する就職活動時期に対応した支援や、大学院博士前期課程での推薦入試導入等、就職率・進学率の向上に取り組む。</p> <p>[評価時の観点] 継続的にカリキュラムの見直しを行うとともに、企業や他大学との連携による教育内容の充実を進めており、中期目標を達成できる見込みである。</p>	4	4	継続的にカリキュラムの見直しを進めるとともに、企業等との連携による教育内容の充実を進めており、評価できる。
<p>[3] ・デザイン学部 デザイン学部では、人間・社会・自然との調和を目指したデザイン・建築を創造できる人材教育を目指し、学部の基礎的な共通教育に加えて、実学教育を中核とした各分野の専門教育により、地域社会や国際社会の持続的発展に貢献できるスペシャリストを育成する教育を充実させる。 特に、建築分野においては、インテリアから建築設計を中心に、地域計画に至るまで、建築に関わる幅広い知識と高度な技能を修得し、建築家や建築分野の専門家の育成を目指す。</p>	<p>[3] ・デザイン学部 学科再編により、デザイン工学科、造形デザイン学科の2学科から、ビジュアルデザイン学科、工芸工業デザイン学科、建築学科の3学科体制に再編し、それぞれの分野が持つ特徴を明確にするとともに、低年次から専門教育を開始することで、スペシャリストを育成する教育を充実させた。また、新カリキュラムにおいて、ルーブリック評価に取り組んだ。 今後、入学試験の選抜方法による入学後の学生状況を精査した上で、各選抜方法における入学定員の見直しを進め、より優れた学生の獲得を目指すとともに、各分野の専門性を明確にした教育体制を構築できる見込みである。</p>	3	3	

中期計画	実績（令和元年度～令和4年度）及び 中期目標期間の終了時の見込み	法人自 己評価	委員会 評価	委員会参考意見																																																																																																																			
<p>(参考指標) ([1]～[3])</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 修業年限内卒業率 ・ 卒業時及び卒業生に対する調査による教育満足・充実度等 ・ 卒業生の就職率(%) <table border="1" data-bbox="120 384 568 608"> <thead> <tr> <th>学部名</th> <th>現状(H29年度卒)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保健福祉学部</td> <td>97.7</td> <td>99.0</td> </tr> <tr> <td>情報工学部</td> <td>96.9</td> <td>98.0</td> </tr> <tr> <td>デザイン学部</td> <td>88.1</td> <td>90.0</td> </tr> <tr> <td>学部計</td> <td>95.3</td> <td>97.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※就職率=就職者数/就職希望者数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業生の進学率(%) <table border="1" data-bbox="120 675 568 898"> <thead> <tr> <th>学部名</th> <th>現状(H29年度卒)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保健福祉学部</td> <td>6.3</td> <td>8.0</td> </tr> <tr> <td>情報工学部</td> <td>30.8</td> <td>32.0</td> </tr> <tr> <td>デザイン学部</td> <td>3.9</td> <td>5.0</td> </tr> <tr> <td>学部計</td> <td>15.5</td> <td>17.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※進学率=進学者数/卒業生数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)の検証に基づくカリキュラム及び実施方法の見直し状況 	学部名	現状(H29年度卒)	目標	保健福祉学部	97.7	99.0	情報工学部	96.9	98.0	デザイン学部	88.1	90.0	学部計	95.3	97.0	学部名	現状(H29年度卒)	目標	保健福祉学部	6.3	8.0	情報工学部	30.8	32.0	デザイン学部	3.9	5.0	学部計	15.5	17.0	<p>(参考指標) ([1]～[3])</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 修業年限内卒業率(%) <table border="1" data-bbox="665 288 1326 483"> <thead> <tr> <th>学部名</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保健福祉学部</td> <td>93.2</td> <td>98.6</td> <td>95.3</td> <td>96.0</td> </tr> <tr> <td>情報工学部</td> <td>81.7</td> <td>86.4</td> <td>88.6</td> <td>86.1</td> </tr> <tr> <td>デザイン学部</td> <td>84.9</td> <td>85.9</td> <td>88.2</td> <td>83.0</td> </tr> <tr> <td>学部計</td> <td>86.4</td> <td>90.7</td> <td>91.0</td> <td>89.0</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業時及び卒業生に対する調査による教育満足・充実度等 ・ 卒業生の就職率(%) <table border="1" data-bbox="665 611 1442 805"> <thead> <tr> <th>学部名</th> <th>目標</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保健福祉学部</td> <td>99.0</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>99.3</td> <td>99.3</td> </tr> <tr> <td>情報工学部</td> <td>98.0</td> <td>98.2</td> <td>96.9</td> <td>100</td> <td>99.0</td> </tr> <tr> <td>デザイン学部</td> <td>90.0</td> <td>93.3</td> <td>85.0</td> <td>100</td> <td>95.9</td> </tr> <tr> <td>学部計</td> <td>97.0</td> <td>97.7</td> <td>95.9</td> <td>99.6</td> <td>98.4</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業生の進学率(%) <table border="1" data-bbox="665 834 1442 1029"> <thead> <tr> <th>学部名</th> <th>目標</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保健福祉学部</td> <td>8.0</td> <td>10.8</td> <td>11.1</td> <td>5.6</td> <td>8.0</td> </tr> <tr> <td>情報工学部</td> <td>32.0</td> <td>31.3</td> <td>36.4</td> <td>44.0</td> <td>30.8</td> </tr> <tr> <td>デザイン学部</td> <td>5.0</td> <td>8.2</td> <td>11.9</td> <td>13.8</td> <td>8.1</td> </tr> <tr> <td>学部計</td> <td>17.0</td> <td>18.8</td> <td>21.6</td> <td>22.7</td> <td>16.8</td> </tr> </tbody> </table>	学部名	R1	R2	R3	R4	保健福祉学部	93.2	98.6	95.3	96.0	情報工学部	81.7	86.4	88.6	86.1	デザイン学部	84.9	85.9	88.2	83.0	学部計	86.4	90.7	91.0	89.0	学部名	目標	R1	R2	R3	R4	保健福祉学部	99.0	100	100	99.3	99.3	情報工学部	98.0	98.2	96.9	100	99.0	デザイン学部	90.0	93.3	85.0	100	95.9	学部計	97.0	97.7	95.9	99.6	98.4	学部名	目標	R1	R2	R3	R4	保健福祉学部	8.0	10.8	11.1	5.6	8.0	情報工学部	32.0	31.3	36.4	44.0	30.8	デザイン学部	5.0	8.2	11.9	13.8	8.1	学部計	17.0	18.8	21.6	22.7	16.8			
学部名	現状(H29年度卒)	目標																																																																																																																					
保健福祉学部	97.7	99.0																																																																																																																					
情報工学部	96.9	98.0																																																																																																																					
デザイン学部	88.1	90.0																																																																																																																					
学部計	95.3	97.0																																																																																																																					
学部名	現状(H29年度卒)	目標																																																																																																																					
保健福祉学部	6.3	8.0																																																																																																																					
情報工学部	30.8	32.0																																																																																																																					
デザイン学部	3.9	5.0																																																																																																																					
学部計	15.5	17.0																																																																																																																					
学部名	R1	R2	R3	R4																																																																																																																			
保健福祉学部	93.2	98.6	95.3	96.0																																																																																																																			
情報工学部	81.7	86.4	88.6	86.1																																																																																																																			
デザイン学部	84.9	85.9	88.2	83.0																																																																																																																			
学部計	86.4	90.7	91.0	89.0																																																																																																																			
学部名	目標	R1	R2	R3	R4																																																																																																																		
保健福祉学部	99.0	100	100	99.3	99.3																																																																																																																		
情報工学部	98.0	98.2	96.9	100	99.0																																																																																																																		
デザイン学部	90.0	93.3	85.0	100	95.9																																																																																																																		
学部計	97.0	97.7	95.9	99.6	98.4																																																																																																																		
学部名	目標	R1	R2	R3	R4																																																																																																																		
保健福祉学部	8.0	10.8	11.1	5.6	8.0																																																																																																																		
情報工学部	32.0	31.3	36.4	44.0	30.8																																																																																																																		
デザイン学部	5.0	8.2	11.9	13.8	8.1																																																																																																																		
学部計	17.0	18.8	21.6	22.7	16.8																																																																																																																		
<p>[4]</p> <p>地域に愛着を持ち、その発展に寄与する意欲・能力を育むため、COC+の一環として設置した副専攻「岡山創生学」の成果を継承し、さらなる地域連携教育の充実・改善を図る。</p>	<p>[4]</p> <p>副専攻「岡山創生学」の成果を継承した「吉備の杜」を創設し、1年次から4年次まで一貫した地域連携教育を構築した。</p> <p>地域に愛着を持ち、地域の発展に寄与する意欲・能力を持つ学生を育成するため、副専攻科目の計画的な実施と改善を進めるとともに、演習・実習先の開拓や学外履修者の受入等、学外との連携を強化した。</p> <p>今後は、文科省の補助事業として進めてきた副専攻の「吉備の杜」の自走をはじめとした、持続性のある体制づくりを進め、地域に愛着を持ち、その発展に寄与する意欲・能力を持つ学生の育成に一層取り組む。また、平成28年度から始まった副専攻の整備が完了したことで、6年一貫の地域志向教育が完成しており、その効果が現れる見込みである。</p>	3	3																																																																																																																				

中期計画	実績（令和元年度～令和4年度）及び 中期目標期間の終了時の見込み	法人自 己評価	委員会 評価	委員会参考意見																		
<p>成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 就職した学生のうち、県内の事業所に就職した学生の割合(%) <table border="1" data-bbox="123 320 577 427"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状(H29年度卒)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全学部平均</td> <td>51.8</td> <td>55.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域連携教育の実施状況(地域の学外関係者による講座数を含む。) 	項目	現状(H29年度卒)	目標	全学部平均	51.8	55.0	<p>成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 就職した学生のうち、県内の事業所に就職した学生の割合(%) <table border="1" data-bbox="674 288 1442 368"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>目標</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全学部平均</td> <td>55.0</td> <td>45.8</td> <td>46.6</td> <td>53.9</td> <td>48.0</td> </tr> </tbody> </table>	項目	目標	R1	R2	R3	R4	全学部平均	55.0	45.8	46.6	53.9	48.0			
項目	現状(H29年度卒)	目標																				
全学部平均	51.8	55.0																				
項目	目標	R1	R2	R3	R4																	
全学部平均	55.0	45.8	46.6	53.9	48.0																	
<p>[5]</p> <p>地域社会及びその延長上の国際社会のニーズに即した人材を適切かつ効果的に育成するとともに、教育研究面での本学の特色を伸長させるため、教育研究組織の見直しについて検討する。</p>	<p>[5]</p> <p>学科再編に伴い全学で大きく見直した3ポリシーの実現に向け、IRデータ分析から課題が明らかとなったグローバルセンスや、キャリア教育の充実を含む地域課題解決力を磨くための、共通教育と学部教育のカリキュラム改善が進んだ。</p> <p>学修成果と学生生活支援をさらに充実させるために、PDCAサイクルを形骸化させることなく効果的に回し続ける仕組みが完成し、それによるカリキュラムの改善が進む見込みである。</p>	3	3																			

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 教育に関する目標達成するためとるべき措置

(1) 教育内容の充実に関する目標を達成するためとるべき措置

イ 大学院教育

中期計画	実績（令和元年度～令和4年度）及び 中期目標期間の終了時の見込み	法人 自己 評価	委員 会 評価	委員会参考意見																		
<p>[6]</p> <p>・保健福祉学研究科 保健福祉学研究科では、保健・医療・福祉分野における問題点を提起してそれを解決し得る高度な研究能力を持つとともに、専門職としての知識・技術を身に付けることにより、少子・超高齢化とグローバル化の進む地域社会において、健康、福祉に関する高度な課題の解決に貢献できる人材を育成する教育を充実させる。</p> <p>成果指標</p> <p>・国家試験の合格率(%)</p> <table border="1" data-bbox="125 847 557 927"> <thead> <tr> <th>試験名</th> <th>現状(H29年度)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保健師</td> <td>87.5</td> <td>90.0</td> </tr> </tbody> </table>	試験名	現状(H29年度)	目標	保健師	87.5	90.0	<p>[6]</p> <p>・保健福祉学研究科 カリキュラムを通して保健師国家試験に向けた対策講義を実施し、保健師国家試験の合格率は100%を維持した。 個別の就職・進学支援の他、福祉行政職の就職セミナーを導入するなど、高度専門職としての就職の支援に取り組んだ。 副専攻「吉備の杜」での専門分野を生かした地域連携教育による現場での実践的な学修や、研究科での海外研修の新設、海外の大学との学術交流によるグローバルな観点からの専門教育を充実させた。 今後も保健師国家試験対策を継続するとともに、地域や海外との交流を通じて専門的、実践的な教育を推進し、入学生の確保に向けた対策にも取り組む。</p> <p>成果指標</p> <p>・国家試験の合格率(%)</p> <table border="1" data-bbox="748 943 1514 1023"> <thead> <tr> <th>試験名</th> <th>目標</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保健師</td> <td>90.0</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <p>[評価時の観点] 保健師国家試験の合格率100%を維持できており、地域や海外と連携した専門教育のさらなる充実により、中期目標を達成できる見込みである。</p>	試験名	目標	R1	R2	R3	R4	保健師	90.0	100	100	100	100	4	4	国家試験合格率100%を維持するとともに、地域や海外と連携した専門教育の充実を進めており、評価できる。
試験名	現状(H29年度)	目標																				
保健師	87.5	90.0																				
試験名	目標	R1	R2	R3	R4																	
保健師	90.0	100	100	100	100																	
<p>[7]</p> <p>・情報系工学研究科 情報系工学研究科では、情報技術を活用して、人間・社会・自然との調和を図りながら、グローバルな視野に立って主導的に第4次産業革命を推し進め、超スマート社会及び地域社会の中枢で活躍できる技術者を育成する教育を充実させる。</p>	<p>[7]</p> <p>・情報系工学研究科 継続的にカリキュラムの見直しを行い、専門教育の充実を図るとともに、副専攻「吉備の杜」をはじめとした研究科における社会人基礎力の向上を目的とした科目を開講した。 岡山県立大学協会のシステムエンジニアリング岡山と連携した企業説明会を開催し、専門分野を生かした進路選択や就職活動の支援を行った。 今後も専門教育の充実を継続するとともに、早期化する就職活動時期に対応した支援や、博士前期課程での推薦入試の導入、博士前期課程早期修了に</p>	3	3																			

中期計画	実績（令和元年度～令和4年度）及び 中期目標期間の終了時の見込み	法人 自己 評価	委員 会 評価	委員会参考意見																																																
<p>[8]</p> <ul style="list-style-type: none"> デザイン学研究科 デザイン学研究科では、グローバルな視野と感性を持ち、社会的に確に捉え、時代の変化を洞察することで、将来予想される問題を優れたデザインの創出により解決し、豊かで新しい便利な生活と文化に寄与できる人材を育成する教育を充実させる。 	<p>[8]</p> <ul style="list-style-type: none"> デザイン学研究科 高度な専門的知識・技能・技術を修得する専門教育に加え、副専攻「吉備の杜」での企業と連携した環境プロジェクトに取り組む等、デザイン分野で地域社会に貢献する人材の育成を推進した。 修士課程学位審査基準の見直しに伴い、論文及び特定の課題に対する審査基準を整備した。また、特別研究に対するルーブリック評価を作成した。 学部の学科改編の完成年度に合わせた研究科改組の準備を進め、カリキュラムの充実を図りつつ、学部学生の卒業研究テーマと教員の研究の関連性を強める仕組みや研究科の学内推薦について検討を進め、課題である定員確保に向けた進学率向上に取り組む。 <p>[評価時の観点]</p> <p>カリキュラムの充実が進む一方、定員充足率は低い状況が続いており、研究科改組での定員確保に向けた対策が必要である。</p>	2	2	定員確保に向けた対策を検討してほしい。																																																
<p>成果指標（[6]～[8]）</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学院修了者の進路決定率（%） <table border="1" data-bbox="125 903 557 1010"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状(H29年度)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全研究科平均</td> <td>97.8</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <p>(参考指標)（[6]～[8]）</p> <ul style="list-style-type: none"> 各研究科の定員充足率 修了時及び修了生に対する調査による教育満足 充実感等 	項目	現状(H29年度)	目標	全研究科平均	97.8	100	<p>成果指標（[6]～[8]）</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学院修了者の進路決定率（%） <table border="1" data-bbox="741 903 1509 984"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>目標</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全研究科平均</td> <td>100</td> <td>98.1</td> <td>94.7</td> <td>94.3</td> <td>97.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>(参考指標)（[6]～[8]）</p> <ul style="list-style-type: none"> 各研究科の定員充足率（%）※収容定員に対する充足率 <table border="1" data-bbox="741 1080 1417 1457"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保健福祉学研究科（博士前期）</td> <td>110.0</td> <td>125.0</td> <td>125.0</td> <td>102.5</td> </tr> <tr> <td>情報系工学研究科（博士前期）</td> <td>85.6</td> <td>87.5</td> <td>94.2</td> <td>108.7</td> </tr> <tr> <td>デザイン学研究科（修士）</td> <td>34.4</td> <td>31.3</td> <td>44.6</td> <td>65.6</td> </tr> <tr> <td>保健福祉学研究科（博士後期）</td> <td>193.3</td> <td>213.3</td> <td>233.3</td> <td>233.3</td> </tr> <tr> <td>情報系工学研究科（博士後期）</td> <td>72.2</td> <td>44.4</td> <td>61.1</td> <td>50.0</td> </tr> </tbody> </table>	項目	目標	R1	R2	R3	R4	全研究科平均	100	98.1	94.7	94.3	97.5	項目	R1	R2	R3	R4	保健福祉学研究科（博士前期）	110.0	125.0	125.0	102.5	情報系工学研究科（博士前期）	85.6	87.5	94.2	108.7	デザイン学研究科（修士）	34.4	31.3	44.6	65.6	保健福祉学研究科（博士後期）	193.3	213.3	233.3	233.3	情報系工学研究科（博士後期）	72.2	44.4	61.1	50.0			
項目	現状(H29年度)	目標																																																		
全研究科平均	97.8	100																																																		
項目	目標	R1	R2	R3	R4																																															
全研究科平均	100	98.1	94.7	94.3	97.5																																															
項目	R1	R2	R3	R4																																																
保健福祉学研究科（博士前期）	110.0	125.0	125.0	102.5																																																
情報系工学研究科（博士前期）	85.6	87.5	94.2	108.7																																																
デザイン学研究科（修士）	34.4	31.3	44.6	65.6																																																
保健福祉学研究科（博士後期）	193.3	213.3	233.3	233.3																																																
情報系工学研究科（博士後期）	72.2	44.4	61.1	50.0																																																

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 教育に関する目標を達成するためとるべき措置

(2) 教育方法等の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	実績（令和元年度～令和4年度）及び 中期目標期間の終了時の見込み	法人 自己 評価	委員 会 評価	委員会参考意見												
<p>[9] 学習成果を上げるため、主体的・協働的な学び（アクティブ・ラーニング）の導入・推進など教育方法の改善を図る。</p> <p>成果指標 ・アクティブ・ラーニングの推進状況 (2年目以降に具体数値目標等設定)</p>	<p>[9] 本学におけるアクティブ・ラーニングの定義を定めた上で、現状把握と目標設定を行った。本学では大人数クラスでも比較的導入しやすい手法も含めてアクティブ・ラーニングを広義に扱うこととしたため、導入率の目標値も80%と高く設定した。コロナ禍でのオンライン中心の授業における定義の見直しも経て、令和4年度には実施率80%を達成することができた。</p> <p>全教職員を対象としたFD・SD研修会や、相互授業参観、授業改善意見交換会等の取組を開始し、教員の教育力向上を図った。</p> <p>今後もFD・SD研修会や授業改善に向けた取組を通して、アクティブ・ラーニングの実施率の目標を達成できる見込みである。また、文科省の助成金申請で求められる指標であるFD・SD研修会への教員参加率75%を継続的に達成できる見込みであり、研修会後の視聴により自主的・持続的に研修を受講できる体制も整え、授業の質の向上に努める。</p> <p>成果指標 ・アクティブ・ラーニングの推進状況（アクティブ・ラーニングの導入率：%）</p> <table border="1" data-bbox="741 975 1529 1058"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>目標</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>専任教員の講義科目</td> <td>80</td> <td>—</td> <td>71.7</td> <td>79.7</td> <td>84.8</td> </tr> </tbody> </table> <p>[評価時の観点] 教員の教育力向上や授業改善を進め、継続的にアクティブ・ラーニングの実施率80%を達成できる見込みである。</p>	項目	目標	R1	R2	R3	R4	専任教員の講義科目	80	—	71.7	79.7	84.8	4	4	授業の改善や教育力向上に向けた取組を進めることができ、評価できる。
項目	目標	R1	R2	R3	R4											
専任教員の講義科目	80	—	71.7	79.7	84.8											
<p>[10] 学生・教職員の教育研究活動を推進するため、必要な施設・設備等の充実を図り、教育研究環境の改善に努める。</p>	<p>[10] 限られた予算の中で、緊急性・必要度を考慮しながら、教育研究推進のための施設・設備の充実を図ってきた。 引き続き、予算編成時期での要望等を精査し整備の充実を進める。</p>	3	3													

中期計画	実績（令和元年度～令和4年度）及び 中期目標期間の終了時の見込み	法人 自己 評価	委員 会 評価	委員会参考意見																
<p>[11] 教育プログラム(科目)として、県内の自治体、企業等へのインターンシップを実施し、県内企業等を知る機会を増やすとともに、職業観の醸成など、学生のキャリア形成の支援に努める。なお、インターンシップの実施に当たっては、受入先との連携を密に行うとともに、大学において事前学習及び報告会を実施するなど教育効果が高まるよう努める。</p> <p>成果指標 ・長期インターンシップ参加者数(人)</p> <table border="1" data-bbox="125 644 573 724"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状(H30年度)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td>55</td> <td>55</td> </tr> </tbody> </table>	項目	現状(H30年度)	目標	参加者数	55	55	<p>[11] 副専攻「岡山創生学」の成果を継承した「吉備の杜」の科目として、長期インターンシップを開講し、コロナ禍への対応を経ながら、受入先の開拓、内容の充実に継続的に取り組んだ。 県内の自治体、企業等での2週間以上の就業体験により、働くことの魅力を伝えるとともに、実践的な学びで社会人基礎力の育成を図った。 副専攻の認知度の向上とともに長期インターンシップの参加者は増加傾向であり、中期目標期間の終了時には50名程度の参加を見込んでいる。 また、学生のみならず教職員に対して、副専攻の教育理念の理解促進活動を進め、副専攻の内容充実と履修促進を図る。</p> <p>成果指標 ・長期インターンシップ参加者数(人)</p> <table border="1" data-bbox="743 676 1361 756"> <thead> <tr> <th>目標</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>55</td> <td>28</td> <td>32</td> <td>58</td> <td>42</td> </tr> </tbody> </table>	目標	R1	R2	R3	R4	55	28	32	58	42	3	3	
項目	現状(H30年度)	目標																		
参加者数	55	55																		
目標	R1	R2	R3	R4																
55	28	32	58	42																

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 2 学生の確保に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	実績（令和元年度～令和4年度）及び 中期目標期間の終了時の見込み	法人 自己 評価	委員 会 評価	委員会参考意見																		
<p>[12] 新たな入試制度が始まる平成33(2021)年度入試に対応するため学士課程入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)の見直しとそれに基づく入学者選抜を実施するとともに、実施結果の点検・評価に基づき改善を図る。 さらに、新高等学校学習指導要領に基づく教育を受けた平成37(2025)年度入学生の受入れに向けて入学者選抜方法やカリキュラムの改善を図る。</p> <p>(参考指標) ・入試実施状況、入学者選抜に係る変更状況</p>	<p>[12] 総合型選抜の新設などの入試制度の変更や学科再編に対応し、アドミッション・ポリシーの見直し、各選抜方法での試験科目や配点の検討を行いつつ、入学者選抜を実施した。 新学習指導要領を踏まえた令和7(2025)年度入試に向けて、変更予告を公表しており、同内容に沿って準備を進め、適切に実施できる見込みである。 今後、各入試の結果について点検・評価を行い、必要に応じて入学者選抜方法の改善を行う予定である。</p>	3	3																			
<p>[13] 加速する18歳人口の減少により大学間競争が激化し、かつ、多様化する入学者選抜に備えて、アドミッション・オフィス機能を整備し、志願者動向等についての調査・分析による入学者選抜等の改善を図るとともに、本学の教育研究の特色・強みを効果的に周知するため、戦略的な入試広報の充実を図り、本学への志願者数を維持する。</p> <p>成果指標 ・一般前期入試での志願倍率(倍)</p> <table border="1" data-bbox="123 1244 564 1380"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状(H26-H31年度入試)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全学部平均</td> <td>3.2</td> <td>3.2以上</td> </tr> </tbody> </table>	項目	現状(H26-H31年度入試)	目標	全学部平均	3.2	3.2以上	<p>[13] アドミッション・高大連携センターを開設し、志願者動向の調査・分析や入試広報の充実等、入試に関する業務を統括できる体制を整えることができた。 SNSを活用した情報発信や学生広報委員の発足等、効果的な入試広報を行うための仕組みを導入した。 センター開設後はこうした取組を進めているところであり、引き続き、より効果的な広報の展開や志願倍率向上への取り組みを進める。</p> <p>成果指標 ・一般前期入試での志願倍率(倍)</p> <table border="1" data-bbox="739 1212 1500 1292"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>目標</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全学部平均</td> <td>3.2以上</td> <td>2.6</td> <td>3.1</td> <td>3.0</td> <td>2.8</td> </tr> </tbody> </table>	項目	目標	R1	R2	R3	R4	全学部平均	3.2以上	2.6	3.1	3.0	2.8	3	3	
項目	現状(H26-H31年度入試)	目標																				
全学部平均	3.2	3.2以上																				
項目	目標	R1	R2	R3	R4																	
全学部平均	3.2以上	2.6	3.1	3.0	2.8																	

中期計画	実績（令和元年度～令和4年度）及び 中期目標期間の終了時の見込み	法人 自己 評価	委員 会 評価	委員会参考意見
<p>[14] 高校生のための大学授業開放や高校への講師派遣、高校の進路指導担当教員との意見交換会など、各種の高大連携事業の方法・内容の改善を図るとともに、効果的な事業の開発、推進を図る。</p> <p>(参考指標) ・高大連携における教育的事業／広報的事業の実施状況(件数等)</p>	<p>[14] アドミッション・高大連携センターの設置により高大連携の窓口を一本化し、センター職員による高校訪問等の連携強化を進めた。 また、オープンキャンパスや授業開放に加え、「岡山県立大学の教育と入試説明会」を開催するとともに、高校のスケジュールに合わせた開催時期の設定等、高校生のニーズに沿った情報発信を強化した。 県内校長との高大連携作業部会をはじめ、高校との意見交換を継続的に行い高大連携を深めるとともに、入試改革に向けた高校の現状把握に役立てている。 今後も、各種事業の推進と見直しを継続し高大連携を深めるとともに、効果的な事業推進に取り組む。</p>	3	3	

- 第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 3 学生の支援に関する目標を達成するためとるべき措置
 (1) 学習支援の充実に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	実績（令和元年度～令和4年度）及び 中期目標期間の終了時の見込み	法人 自己 評価	委員 会 評価	委員会参考意見												
<p>[15] 附属図書館において、学生等の多様なニーズに応えるため、学習空間の提供、教育研究・学習に必要な資料の整備・充実、教育研究支援等、図書館サービスの充実に取り組む。</p> <p>(参考指標) ・附属図書館の利用状況及び満足度</p>	<p>[15] 附属図書館において、学生のニーズに応えるため、閲覧席のコンセント設置、個別席化のためのパーティション設置、小説等の一般書が電子書籍で読める電子図書館システム導入などを整備するとともに、「ブックフェア」「選書ツアー・WEB選書」「電子ブックリクエストフェア」「学生希望図書」等での学生目線での選書の取組を充実させた。 コロナ禍においては、感染症対策を実施して開館するとともに、電子書籍やリモートアクセスの整備を行った。 今後も、学生のニーズに応える形で学習空間、資料の整備を進めるなど、図書館サービスのさらなる充実を図る。</p>	3	3													
<p>[16] アクティブ・ラーニングに対応する教室や自習環境の充実、学習環境整備や学内の連携体制などを工夫・改善し、学習支援の充実に取り組む。</p> <p>成果指標 ・アクティブ・ラーニングの推進状況(2年目以降に具体数値目標等設定) (再掲：9)</p> <p>(参考指標) ・学生の自習状況及び学内の自習環境に対する利用状況・満足度(演習室の延べ利用者数、自習に関するアンケート)</p>	<p>[16] 学生の自習状況及び学内の自習環境に対する利用状況・満足度等を分析・検証するとともに、ラーニングコモンズの周知に努め、学生の利用率は令和4年度に約80%となった。 コロナ禍の影響を受けて大半の授業がオンラインでの開講となる中で、システムやツールの整備、手法の工夫により、講義科目のアクティブ・ラーニング実施率は70%以上を維持した。 今後も学習環境の充実に努め、アクティブ・ラーニング実施率80%を継続的に達成させるとともに、学生会館のリニューアル等、ラーニングコモンズの整備を進める。</p> <p>成果指標 ・アクティブ・ラーニングの推進状況 (アクティブ・ラーニングの導入率：%)</p> <table border="1" data-bbox="741 1198 1514 1281"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>目標</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>専任教員の講義科目</td> <td>80</td> <td>—</td> <td>71.7</td> <td>79.7</td> <td>84.8</td> </tr> </tbody> </table> <p>[評価時の観点] 学習環境の整備を進め、継続的にアクティブ・ラーニングの実施率80%を達成できる見込みである。</p>	項目	目標	R1	R2	R3	R4	専任教員の講義科目	80	—	71.7	79.7	84.8	4	4	
項目	目標	R1	R2	R3	R4											
専任教員の講義科目	80	—	71.7	79.7	84.8											

中期計画	実績（令和元年度～令和4年度）及び 中期目標期間の終了時の見込み	法人 自己 評価	委員 会 評価	委員会参考意見										
<p>[17]</p> <p>学修支援体制の充実を図るため、学生毎にアドバイザー教員を決め進路や学業などの相談を受けるアドバイザー制度及び教員が学生の訪問時間帯を設けて研究室で待機し、授業等の疑問点や個人的な悩みなどの相談を受けるオフィスアワーを活用するとともに、学生に授業等の補助を担わせるスチューデント・アシスタント制度の整備に努める。</p> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> スチューデント・アシスタント(SA)制度の整備・利活用状況、アドバイザー面談、オフィスアワーの実施状況(関連：第2-3-(2)生活支援の充実) 	<p>[17]</p> <p>アドバイザー面談は、コロナ禍であっても高い実施率を維持し、各教員のオフィスアワーはシラバスで公開するとともに学生への周知に努め、学生からの相談体制を整えている。また、教職員のための学生対応マニュアルを作成し、より適切な対応ができるよう支援体制の向上に取り組んだ。</p> <p>令和5年度からスチューデント・アシスタント制度の運用を開始し、各支援制度を進めながらアセスメントを行い、必要なアップデートを進めていく。さらに、3年度後半から提出を求めている休退学時の面談報告書の分析を行い、各制度の運用も含めて、学生の望まない休退学を減少させるための体制整備の取組を進める。</p> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> アドバイザー面談の実施率(%) <table border="1" data-bbox="741 676 1426 794"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全学部平均</td> <td>92.4</td> <td>前期 96.2 後期 93.7</td> <td>前期 95.5 後期 94.1</td> <td>前期 97.1 後期 98.4</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R1	R2	R3	R4	全学部平均	92.4	前期 96.2 後期 93.7	前期 95.5 後期 94.1	前期 97.1 後期 98.4	3	3	
項目	R1	R2	R3	R4										
全学部平均	92.4	前期 96.2 後期 93.7	前期 95.5 後期 94.1	前期 97.1 後期 98.4										
<p>[18]</p> <p>学生の豊かな人格形成に資するため、大学との連携の下、学生が主体となり学内外のボランティア活動や授業、教育、学内環境改善等に関わる活動である学生FD(ファカルティ・ディベロップメント)活動を推進するなど、学生の主体性を尊重した正課外活動支援体制の整備に努める。</p> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生の正課外活動への支援状況 正課外ボランティア活動への参加状況(参加要請数、参加延学生数) 	<p>[18]</p> <p>ボランティア活動について支援・管理する部局を新設し、募集情報の周知、研修会の開催、相談体制の整備、アンケートの実施等により、学生の参加意欲の向上や活動の活性化、活動状況を把握できる体制を整備した。</p> <p>学外の中間支援組織であるNPOセンター、ボランティアセンターと協力し、地域のボランティア活動推進方策を検討した。</p> <p>今後は、正課外活動の支援体制の整備を進め、コロナ禍で制限されることが多かったことにより縮小した学生の活動を支援することで、コロナ前のような学生の活発な活動を取り戻すことができる見込みである。</p>	3	3											

- 第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 3 学生の支援に関する目標を達成するためとるべき措置
 (2) 生活支援の充実に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	実績（令和元年度～令和4年度）及び 中期目標期間の終了時の見込み	法人 自己 評価	委員 会 評価	委員会参考意見																																																		
<p>[19] 学生のメンタルサポートのために、学生相談体制の充実を図るとともに、保健室、アドバイザー教員と連携した支援に努める。 また、奨学金制度や授業料減免制度について周知を図り、財源に応じた経済支援を行うほか、国の高等教育段階の教育費負担軽減新制度（平成32(2020)年度開始予定）に備え、必要に応じ準備・適用を行う。</p> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各窓口の利用状況 退学・休学者数 修業年限内卒業率 スチューデント・アシスタント(SA)制度の整備・利活用状況、アドバイザー面談、オフィスアワーの実施状況(再掲：17) 減免適用状況(学生数・減免総額) (※平成32(2020)年度から適用となれば国の給付型奨学金の適用状況) 	<p>[19] 学生相談室（ほっとルーム）を周知し、認知度を上げるとともに、FD・SD研修会の開催、教職員のための学生対応マニュアル作成等により、適切な支援を行うための体制強化を進めた。 また、経済支援については奨学金や授業料減免制度の周知に努め、支援を必要とする学生の殆どが制度を認知している状況にある。 令和5年度からは心身のサポートが必要な学生に対する相談業務に従事する学生支援コーディネーターを新設し、学生と教職員の両者を専門的な立場から支援できる見込みである。 更に、これらのアセスメントを行い必要な改善を行うとともに、メンタルチェック体制の整備を進め、これまでの取組の継続と合わせて、支援が必要な学生に対するきめ細やかな支援体制を整備する見込みである。</p> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各窓口の利用状況(延べ人数：人) <table border="1" data-bbox="741 900 1382 1023"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学生相談室</td> <td>226</td> <td>159</td> <td>215</td> <td>300</td> </tr> <tr> <td>保健室</td> <td>425</td> <td>146</td> <td>474</td> <td>301</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 退学・休学者数(人) <table border="1" data-bbox="741 1074 1382 1197"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>退学者</td> <td>31</td> <td>21</td> <td>33</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td>休学者</td> <td>38</td> <td>35</td> <td>43</td> <td>65</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 修業年限内卒業率(%) <table border="1" data-bbox="741 1246 1382 1434"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学部</td> <td>86.4</td> <td>90.7</td> <td>91.0</td> <td>89.0</td> </tr> <tr> <td>博士前期・修士</td> <td>81.8</td> <td>88.4</td> <td>77.1</td> <td>84.5</td> </tr> <tr> <td>博士後期</td> <td>36.4</td> <td>25.0</td> <td>33.3</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R1	R2	R3	R4	学生相談室	226	159	215	300	保健室	425	146	474	301	項目	R1	R2	R3	R4	退学者	31	21	33	29	休学者	38	35	43	65	項目	R1	R2	R3	R4	学部	86.4	90.7	91.0	89.0	博士前期・修士	81.8	88.4	77.1	84.5	博士後期	36.4	25.0	33.3	0	4	4	<p>学生に対するきめ細やかな支援体制の整備を進めており、評価できる。</p>
項目	R1	R2	R3	R4																																																		
学生相談室	226	159	215	300																																																		
保健室	425	146	474	301																																																		
項目	R1	R2	R3	R4																																																		
退学者	31	21	33	29																																																		
休学者	38	35	43	65																																																		
項目	R1	R2	R3	R4																																																		
学部	86.4	90.7	91.0	89.0																																																		
博士前期・修士	81.8	88.4	77.1	84.5																																																		
博士後期	36.4	25.0	33.3	0																																																		

中期計画	実績（令和元年度～令和4年度）及び 中期目標期間の終了時の見込み	法人 自己 評価	委員 会 評価	委員会参考意見															
	<p>・ 修学支援新制度減免適用状況 申請件数（件）、減免総額（千円）</p> <table border="1" data-bbox="741 292 1384 416"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>申請件数</td> <td></td> <td>340</td> <td>348</td> <td>364</td> </tr> <tr> <td>減免総額</td> <td></td> <td>83,763</td> <td>80,107</td> <td>87,719</td> </tr> </tbody> </table> <p>[評価時の観点] 学生相談体制および経済支援体制の整備が進み、より一層きめ細やかな支援が実現できる見込みである。</p>	項目	R1	R2	R3	R4	申請件数		340	348	364	減免総額		83,763	80,107	87,719			
項目	R1	R2	R3	R4															
申請件数		340	348	364															
減免総額		83,763	80,107	87,719															
<p>[20] 障がい学生等が充実した生活を送ることができるよう合理的配慮の充実に努める。</p> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 配慮要請件数と合理的配慮提供件数 	<p>[20] 学生からの配慮申請に対して、スロープの設置、多目的トイレの改修、車いす走路の整備、聴覚機器の整備などハード面の配慮に加え、ピア・サポーターによる通学支援、適切な情報保障の提供、代替手段の提供などのソフト面の配慮に取り組んだ。</p> <p>教職員に対しては学生対応マニュアルや研修会を通して、配慮に対する理解と適切な配慮の実施を促進するとともに、適切な配慮実施のために他大学との情報共有やリソースシェアができる外部組織に参画してきた。</p> <p>令和5年度からは心身のサポートが必要な学生に対する相談業務に従事する学生支援コーディネーターを新設し、学生と教職員の両者を専門的な立場から支援できる体制にした。</p> <p>引き続きハード面での配慮を計画的に進めるとともに、適切な配慮が実施できるよう教職員のサポート体制を含めたソフト面の整備を継続する。</p> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 配慮要請件数と合理的配慮提供件数(件) <table border="1" data-bbox="741 1066 1496 1190"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>配慮要請件数</td> <td>8</td> <td>5</td> <td>12</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>合理的配慮提供件数</td> <td>8</td> <td>13</td> <td>23</td> <td>18</td> </tr> </tbody> </table> <p>[評価時の観点] 障がいのある学生への適切な合理的配慮を継続できており、今後も支援体制の整備を進め、より充実した合理的配慮が提供できる見込みである。</p>	項目	R1	R2	R3	R4	配慮要請件数	8	5	12	5	合理的配慮提供件数	8	13	23	18	4	4	<p>配慮を要する学生への支援の充実にに向けた取組を進めており、評価できる。</p>
項目	R1	R2	R3	R4															
配慮要請件数	8	5	12	5															
合理的配慮提供件数	8	13	23	18															

- 第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 3 学生の支援に関する目標に関する目標を達成するためとるべき措置
 (3) 就職支援の充実に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	実績（令和元年度～令和4年度）及び 中期目標期間の終了時の見込み	法人 自己 評価	委員 会 評価	委員会参考意見																																																															
<p>[21] これまで学部学科別等、個別に実施していた就職支援について情報を共有するとともに、学生への多様な就職支援策を充実させるため、キャリア形成支援及び学生生活支援の柱となるキャリア・学生生活支援センター(仮称)を設置し、各種支援を充実させる。</p> <p>成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 就職した学生のうち、県内の事業所に就職した学生の割合(%) (再掲：4) <table border="1" data-bbox="120 785 557 892"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状(H29年度卒)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全学部平均</td> <td>51.8</td> <td>55.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> 就職満足度(卒業時アンケート) 卒業生の就職率(%) <table border="1" data-bbox="120 1021 557 1295"> <thead> <tr> <th>学部名</th> <th>現状(H29年度卒)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保健福祉学部</td> <td>97.7</td> <td>99.0</td> </tr> <tr> <td>情報工学部</td> <td>96.9</td> <td>98.0</td> </tr> <tr> <td>デザイン学部</td> <td>88.1</td> <td>90.0</td> </tr> <tr> <td>学部計</td> <td>95.3</td> <td>97.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※就職率=就職者数/就職希望者</p>	項目	現状(H29年度卒)	目標	全学部平均	51.8	55.0	学部名	現状(H29年度卒)	目標	保健福祉学部	97.7	99.0	情報工学部	96.9	98.0	デザイン学部	88.1	90.0	学部計	95.3	97.0	<p>[21] キャリア・学生生活支援センターを設置するとともに、全学科に就職担当教員を配置して、学科間やキャリア・就職相談室との連携を強化し、学生の就職活動状況の把握や、相談体制の充実を図った。 様々なツールやイベントを通して学生に情報を提供するとともに、岡山県立大学協会やシステムエンジニアリング岡山と連携して説明会を開催し、県内企業の魅力発信を行った。 今後、県内企業の情報を積極的に発信するとともに、情報工学部が中心であった協会のイベントを全学的に広げるなど、多くの学生に対して県内事業所の認知度向上を進め、県内就職率の向上に努める。 また、求人NAVIやニュースレター等の情報発信ツールの周知強化を図るとともに、就職支援部門教員と職員が連携して就職ガイダンスを企画するなど、学生のニーズや状況に適した支援により、就職率の向上を図る。</p> <p>成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 就職した学生のうち、県内の事業所に就職した学生の割合(%) <table border="1" data-bbox="745 941 1516 1021"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>目標</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全学部平均</td> <td>55.0</td> <td>45.8</td> <td>46.6</td> <td>53.9</td> <td>48.0</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 卒業生の就職率(%) <table border="1" data-bbox="741 1085 1507 1283"> <thead> <tr> <th>学部名</th> <th>目標</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保健福祉学部</td> <td>99.0</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>99.3</td> <td>99.3</td> </tr> <tr> <td>情報工学部</td> <td>98.0</td> <td>98.2</td> <td>96.9</td> <td>100</td> <td>99.0</td> </tr> <tr> <td>デザイン学部</td> <td>90.0</td> <td>93.3</td> <td>85.0</td> <td>100</td> <td>95.9</td> </tr> <tr> <td>学部計</td> <td>97.0</td> <td>97.7</td> <td>95.9</td> <td>99.6</td> <td>98.4</td> </tr> </tbody> </table>	項目	目標	R1	R2	R3	R4	全学部平均	55.0	45.8	46.6	53.9	48.0	学部名	目標	R1	R2	R3	R4	保健福祉学部	99.0	100	100	99.3	99.3	情報工学部	98.0	98.2	96.9	100	99.0	デザイン学部	90.0	93.3	85.0	100	95.9	学部計	97.0	97.7	95.9	99.6	98.4	3	3	
項目	現状(H29年度卒)	目標																																																																	
全学部平均	51.8	55.0																																																																	
学部名	現状(H29年度卒)	目標																																																																	
保健福祉学部	97.7	99.0																																																																	
情報工学部	96.9	98.0																																																																	
デザイン学部	88.1	90.0																																																																	
学部計	95.3	97.0																																																																	
項目	目標	R1	R2	R3	R4																																																														
全学部平均	55.0	45.8	46.6	53.9	48.0																																																														
学部名	目標	R1	R2	R3	R4																																																														
保健福祉学部	99.0	100	100	99.3	99.3																																																														
情報工学部	98.0	98.2	96.9	100	99.0																																																														
デザイン学部	90.0	93.3	85.0	100	95.9																																																														
学部計	97.0	97.7	95.9	99.6	98.4																																																														

中期計画	実績（令和元年度～令和4年度）及び 中期目標期間の終了時の見込み	法人 自己 評価	委員 会 評価	委員会参考意見																															
<p>[22] 企業等へのインターンシップに関する情報提供及び機会創出と併せて、学生のキャリア形成を支援する科目を充実させることで学生の主体的な職業選択を促し、職業意識を醸成させる。</p> <p>成果指標 ・長期インターンシップ参加者数(人) (再掲：11)</p> <table border="1" data-bbox="123 517 557 630"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状(H30年度)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td>55</td> <td>55</td> </tr> </tbody> </table> <p>(参考指標) ・インターンシップ実施状況(参加延学生数等) ・キャリア形成を支援する科目の履修登録者数 ・各種就職ガイダンスの実施状況</p>	項目	現状(H30年度)	目標	参加者数	55	55	<p>[22] 岡山県立大学協力会企業を中心に働きかけ、インターンシップの受入先を充実させるとともに、様々なツールで学生への情報提供を行った。 授業科目として開講する長期インターンシップをコロナ禍の影響を受けながらも継続して実施し、認知度向上と内容の充実に取り組み、参加者の増加を図った。 今後は、共通教育として立ち上げるキャリア科目と連携して、キャリアカルの整備や利用促進、インターンシップ科目の参加者増加に向けた取り組みを進める。</p> <p>成果指標 ・長期インターンシップ参加者数(人)</p> <table border="1" data-bbox="741 644 1361 724"> <thead> <tr> <th>目標</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>55</td> <td>28</td> <td>32</td> <td>58</td> <td>43</td> </tr> </tbody> </table> <p>(参考指標) ・インターンシップ実施状況(参加延学生数等) 総社市インターンシップ</p> <table border="1" data-bbox="741 853 1361 971"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>短期</td> <td>11</td> <td>17</td> <td>8</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>長期</td> <td></td> <td>6</td> <td>27</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>	目標	R1	R2	R3	R4	55	28	32	58	43	項目	R1	R2	R3	R4	短期	11	17	8	12	長期		6	27	4	3	3	
項目	現状(H30年度)	目標																																	
参加者数	55	55																																	
目標	R1	R2	R3	R4																															
55	28	32	58	43																															
項目	R1	R2	R3	R4																															
短期	11	17	8	12																															
長期		6	27	4																															
<p>[23] 卒業生に対して同窓会や各種フォーラム等への積極的な参加を呼びかけ、連携を深めることにより、在学生に対する助言・指導等の協力を得られるよう努める。</p> <p>(参考指標) ・県大吉備塾等、卒業生に協力を求める取組状況</p>	<p>[23] 県大吉備塾が卒業生を講師にしたキャリア支援事業として定着し、コロナ禍の影響を強く受けながらも、開催する学科、回数を増やし、内容も充実させるなど、発展させ継続してきた。参加した学生からは、いずれの会においても高い評価を得ている。 今後は、卒業生との連携を一層深めるために、同窓会との情報共有を図り、連携する体制づくりを進める。また、各学科のキャリア形成支援活動を集約し、共通教育として開講するキャリア科目と連携して広報活動を強化することで、学生のキャリア意識向上に役立てる。</p>	3	3																																

中期計画	実績（令和元年度～令和4年度）及び 中期目標期間の終了時の見込み	法人 自己 評価	委員 会 評価	委員会参考意見															
	(参考指標) ・ 県大吉備塾実施回数（回）、参加人数（人） <table border="1" data-bbox="741 325 1386 443"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>回数</td> <td>8</td> <td>6</td> <td>9</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>324</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>224</td> </tr> </tbody> </table> ※R2、3はオンライン開催のため参加人数未集計	項目	R1	R2	R3	R4	回数	8	6	9	9	人数	324	-	-	224			
項目	R1	R2	R3	R4															
回数	8	6	9	9															
人数	324	-	-	224															

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

4 研究に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 研究の充実に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	実績（令和元年度～令和4年度）及び 中期目標期間の終了時の見込み	法人 自己 評価	委員 会 評価	委員会参考意見																																
<p>[24]</p> <p>学内の競争的研究資金のあり方を見直し、本学の研究活動における特色・強みを明確化するとともに、産業の振興や地域課題の解決の観点も踏まえ、重点的に取り組むべき研究分野を示し、研究力向上及び研究活動の活性化を図る。</p> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究活動の特色や重点研究分野の明確化に関する推進状況 研究活性化の状況 	<p>[24]</p> <p>研究活動における特色や強みを明確化し、研究費による支援を推進するため、学内競争的資金制度の評価、見直しを継続し、同制度の研究活動の活性化への有効性を可視化するとともに、申請者に対する査定基準や配分方針のフィードバックを行い、研究費配分の効率化に取り組んだ。</p> <p>県の要望と本学シーズとの融合を目指したスタディミーティングを立ち上げ、定例化した。</p> <p>今後も、学内競争的資金の戦略的交付により重点領域研究や若手研究者を支援し、研究力向上と研究活動の活性化を推進する。</p>	3	3																																	
<p>[25]</p> <p>競争的研究資金及び国・民間等の公募型研究助成事業への積極的な申請を奨励するとともに、採択率の向上に努める。</p> <p>成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 公募型研究助成事業の採択数(科学研究費補助金を除く。)(件) <table border="1" data-bbox="123 1018 555 1121"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状(H25-H30.11月時点の平均)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>21.5</td> <td>25</td> </tr> </tbody> </table> <p>※「国・省庁の政府系助成金」及び「民間からの助成金」</p> <ul style="list-style-type: none"> 科学研究費補助金採択率(%) <table border="1" data-bbox="123 1220 555 1324"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状(H25-H30年度平均)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>採択率</td> <td>24.9</td> <td>27</td> </tr> </tbody> </table> <p>※第3期中期計画の期間において、経過年度の平均値で評定(関連：第3-2-(1))</p>	項目	現状(H25-H30.11月時点の平均)	目標	件数	21.5	25	項目	現状(H25-H30年度平均)	目標	採択率	24.9	27	<p>[25]</p> <p>外部研究助成事業の公募情報のメール配信やウェブサイトへの掲載により応募を促し、外部資金獲得の増加を図った。</p> <p>科学研究費助成事業では、計画書の提出前検討会(外部業者による添削)や計画書作成勉強会等の申請支援を定着させ、積極的な申請の促進と採択率の向上に努めた。</p> <p>コロナ禍での科学研究費採択率の低下を受け、その要因調査と今後の向上策を検討するとともに、各種支援を継続し、研究費獲得による研究の活性化を図る。</p> <p>成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 公募型研究助成事業の採択数(科学研究費補助金を除く。)(件) <table border="1" data-bbox="871 1161 1478 1241"> <thead> <tr> <th>目標</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>25</td> <td>21</td> <td>25</td> <td>15</td> <td>28</td> </tr> </tbody> </table> <p>※「国・省庁の政府系助成金」及び「民間からの助成金」</p> <ul style="list-style-type: none"> 科学研究費補助金採択率(%) <table border="1" data-bbox="871 1321 1478 1401"> <thead> <tr> <th>目標</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>27</td> <td>30.3</td> <td>28.1</td> <td>23.5</td> <td>23.4</td> </tr> </tbody> </table>	目標	R1	R2	R3	R4	25	21	25	15	28	目標	R1	R2	R3	R4	27	30.3	28.1	23.5	23.4	3	3	
項目	現状(H25-H30.11月時点の平均)	目標																																		
件数	21.5	25																																		
項目	現状(H25-H30年度平均)	目標																																		
採択率	24.9	27																																		
目標	R1	R2	R3	R4																																
25	21	25	15	28																																
目標	R1	R2	R3	R4																																
27	30.3	28.1	23.5	23.4																																

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

4 研究に関する目標を達成するためとるべき措置

(2) 多様な研究活動の展開に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	実績（令和元年度～令和4年度）及び 中期目標期間の終了時の見込み	法人 自己 評価	委員 会 評価	委員会参考意見																											
<p>[26] 企業・団体等との連携研究により、産業界の発展に寄与する研究を充実する。併せて、共同研究費等の獲得に向けた取組を行う。</p> <p>成果指標 ・地域の企業・団体等との共同研究費・受託研究費・教育研究奨励金の獲得状況(合計)(件、千円)</p> <table border="1" data-bbox="123 754 568 900"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状(H24－H29年度平均)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>109.5</td> <td>130</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td>86,600</td> <td>100,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>※件数又は金額を到達基準とする</p>	項目	現状(H24－H29年度平均)	目標	件数	109.5	130	金額	86,600	100,000	<p>[26] 共同研究等推進のための教員シーズの広報活動として、OPUフォーラムにおける研究シーズ展示、産学官連携ガイドの発行、県産業労働部の技術シーズ集への情報提供、イノベーションジャパンへの出展、県研究機関協議会研究交流発表会への出展等を積極的に行った。 本学の発行する研究シーズ集については、従来の冊子版をweb掲載とすることにより汎用性を高めた。 教員に対して外部資金獲得促進アンケートを行い、共同研究等を行いたいを実施できてない教員を中心にフォロー体制を確立した。 アクティブ・ラボについて、従来の企業等訪問のみを対象としていた体制から、企業等の来学訪問やオンラインでの実施も取り入れ、共同研究等のきっかけとなる機会の創出を促した。 コロナ禍の影響により、共同研究等の件数、金額は大きく低下したが、研究シーズの発信、アクティブ・ラボを進めることで、共同研究等を目標に近い件数まで回復できる見込みである。</p> <p>成果指標 ・地域の企業・団体等との共同研究費・受託研究費・教育研究奨励金の獲得状況(合計)(件、千円)</p> <table border="1" data-bbox="741 1109 1494 1227"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>目標</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>130</td> <td>110</td> <td>90</td> <td>83</td> <td>108</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td>100,000</td> <td>82,620</td> <td>70,004</td> <td>44,932</td> <td>69,211</td> </tr> </tbody> </table>	項目	目標	R1	R2	R3	R4	件数	130	110	90	83	108	金額	100,000	82,620	70,004	44,932	69,211	3	3	研究シーズの発信やアクティブ・ラボの推進など積極的な営業活動に取り組み、共同研究費等の獲得につなげてほしい。
項目	現状(H24－H29年度平均)	目標																													
件数	109.5	130																													
金額	86,600	100,000																													
項目	目標	R1	R2	R3	R4																										
件数	130	110	90	83	108																										
金額	100,000	82,620	70,004	44,932	69,211																										

中期計画	実績（令和元年度～令和4年度）及び 中期目標期間の終了時の見込み	法人 自己 評価	委員 会 評価	委員会参考意見															
<p>[27] 本学の専門分野の特性を生かして、学部を越えた分野連携による新規性の高い研究開発を積極的に推進する。</p> <p>(参考指標) ・学部を越えた分野連携による研究状況(件数、参加人数、成果等)</p>	<p>[27] 学部の枠を超えた学際的研究として重点領域研究を設定し、学内競争的資金を配分することで、多分野の教員の連携による研究の活性化を図った。</p> <p>一方で、参加者の偏り等の課題も見えてきたため、学内競争的資金制度に研究成果の可視化や若手研究者支援の仕組みを取り入れ、戦略的な研究費支援を続けて行くことを検討しており、学内競争的資金制度の戦略的交付を進めることで、各分野の連携による研究の活性化を推進する。</p> <p>(参考指標) ・学部を越えた分野連携による研究状況</p> <table border="1" data-bbox="741 580 1509 699"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>重点領域研究課題数</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>同参加人数（学内）</td> <td>63</td> <td>54</td> <td>43</td> <td>49</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R1	R2	R3	R4	重点領域研究課題数	7	7	7	7	同参加人数（学内）	63	54	43	49	3	3	
項目	R1	R2	R3	R4															
重点領域研究課題数	7	7	7	7															
同参加人数（学内）	63	54	43	49															

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

4 研究に関する目標を達成するためとるべき措置

(3) 研究成果の還元に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	実績（令和元年度～令和4年度）及び 中期目標期間の終了時の見込み	法人 自己 評価	委員 会 評価	委員会参考意見																																																
<p>[28] 地域の活性化や産業振興に貢献するため、地域ニーズの把握に努め、本学の専門分野における知的資源の提供を行うことにより、地域社会が抱える課題への提言・助言を行うシンクタンクの役割を果たす。</p> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域課題への研究成果の還元、政策課題への提言・助言の実績 ・OPUフォーラム等における県内企業成果展示件数 ・自治体等からの委員の委嘱件数 ・自治体等への講師派遣件数 	<p>[28] OPUフォーラムにおける研究展示をはじめ、本学の研究シーズを積極的に公開し、共同研究の活性化を図るとともに、岡山県寄附講座「おかやま組込みシステム・AI講座」や岡山県立大学協力会の技術講習会を実施し、本学の知的資源を活用した県内企業の技術力向上に取り組んだ。</p> <p>岡山県立大学協力会やシステムエンジニアリング岡山による企業説明会の継続実施等により、県内企業の魅力を学生にアピールする活動を継続的に実施し、学生の県内企業への定着を促進した。</p> <p>今後も本学の研究シーズを企業の技術力向上のために活用するとともに、学生の県内企業への定着を促進することで、地域の活性化や産業振興に貢献できる見込みである。</p> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OPUフォーラムにおける県内企業成果展示件数 <table border="1" data-bbox="741 884 1227 963"> <thead> <tr> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>30</td> <td>中止</td> <td>10</td> <td>17</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・自治体等からの委員の委嘱件数 <table border="1" data-bbox="741 1011 1471 1171"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>岡山県</td> <td>55</td> <td>57</td> <td>59</td> <td>54</td> </tr> <tr> <td>市町村</td> <td>74</td> <td>57</td> <td>69</td> <td>67</td> </tr> <tr> <td>国・独立行政法人</td> <td>11</td> <td>8</td> <td>10</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・自治体等への講師派遣件数 <table border="1" data-bbox="741 1219 1471 1378"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>岡山県</td> <td>19</td> <td>8</td> <td>10</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>市町村</td> <td>25</td> <td>17</td> <td>15</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>国・独立行政法人</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>	R1	R2	R3	R4	30	中止	10	17	項目	R1	R2	R3	R4	岡山県	55	57	59	54	市町村	74	57	69	67	国・独立行政法人	11	8	10	7	項目	R1	R2	R3	R4	岡山県	19	8	10	11	市町村	25	17	15	19	国・独立行政法人	0	1	2	3	3	3	
R1	R2	R3	R4																																																	
30	中止	10	17																																																	
項目	R1	R2	R3	R4																																																
岡山県	55	57	59	54																																																
市町村	74	57	69	67																																																
国・独立行政法人	11	8	10	7																																																
項目	R1	R2	R3	R4																																																
岡山県	19	8	10	11																																																
市町村	25	17	15	19																																																
国・独立行政法人	0	1	2	3																																																

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

5 地域貢献に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 地域連携教育の充実に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	実績（令和元年度～令和4年度）及び 中期目標期間の終了時の見込み	法人 自己 評価	委員 会 評価	委員会参考意見																		
<p>[再掲：4] 地域に愛着を持ち、その発展に寄与する意欲・能力を育むため、COC+の一環として設置した副専攻「岡山創生学」の成果を継承し、さらなる地域連携教育の充実・改善を図る。</p> <p>成果指標 ・就職した学生のうち、県内の事業所に就職した学生の割合(%)</p> <table border="1" data-bbox="123 721 555 828"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状(H29年度卒)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全学部平均</td> <td>51.8</td> <td>55.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(参考指標) ・地域連携教育の実施状況(地域の学外関係者による講座数を含む。)</p>	項目	現状(H29年度卒)	目標	全学部平均	51.8	55.0	<p>[再掲：4] 副専攻「岡山創生学」の成果を継承した「吉備の杜」を創設し、1年次から4年次まで一貫した地域連携教育を構築した。 地域に愛着を持ち、地域の発展に寄与する意欲・能力を持つ学生を育成するため、副専攻科目の計画的な実施と改善を進めるとともに、演習・実習先の開拓や学外履修者の受入等、学外との連携を強化した。 今後は、文科省の補助事業として進めてきた副専攻の「吉備の杜」の自走をはじめとした、持続性のある体制づくりを進め、地域に愛着を持ち、その発展に寄与する意欲・能力を持つ学生の育成に一層取り組む。また、平成28年度から始まった副専攻の整備が完了したことで、6年一貫の地域志向教育が完成しており、その効果が現れる見込みである。</p> <p>成果指標 ・就職した学生のうち、県内の事業所に就職した学生の割合(%)</p> <table border="1" data-bbox="710 865 1478 946"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>目標</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全学部平均</td> <td>55.0</td> <td>45.8</td> <td>46.6</td> <td>53.9</td> <td>48.0</td> </tr> </tbody> </table>	項目	目標	R1	R2	R3	R4	全学部平均	55.0	45.8	46.6	53.9	48.0	3	3	
項目	現状(H29年度卒)	目標																				
全学部平均	51.8	55.0																				
項目	目標	R1	R2	R3	R4																	
全学部平均	55.0	45.8	46.6	53.9	48.0																	
<p>[29] SDGs(持続可能な開発目標)の理念を意識した地域連携教育に取り組み、理念の普及と社会貢献活動を推進する。</p> <p>(参考指標) ・地域住民等を対象とした各種講演・講座等の開催状況(趣旨・回数・参加者数)</p>	<p>[29] 副専攻「岡山創生学」の成果を継承した「吉備の杜」の創設により、受講生のSDGsへの理解度を高めるとともに、学部から大学院まで一貫した地域連携教育体制を整備した。 大学コンソーシアム岡山に参画し、各種イベントを通して県内大学との連携による地域貢献活動を推進した。 国のSDGsアクションプランに沿って、健康・子育て・食育など地域住民等を対象とした各種講演・講座を開講するコミュニティキャンパスおかやま等により、県内の自治体等と連携して地域のニーズに応じた地域貢献事業を推進した。 今後も地域連携教育の継続と充実、その一部のリカレント教育としての提供により、SDGsを意識した地域人材の輩出・育成を進めていく。 また、県内各所と連携し、本学の資源を生かした事業を積極的に実施し、地域貢献を継続する。</p>	3	3																			

- 第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 5 地域貢献に関する目標を達成するためとるべき措置
 (2) 地域貢献活動の充実に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	実績（令和元年度～令和4年度）及び 中期目標期間の終了時の見込み	法人 自己 評価	委員 会 評価	委員会参考意見
<p>[30] 本学の教育研究資源を生かして地域の課題解決に取り組むため、地域との連携による協働事業を推進するとともに、各種講演・講座やワークショップ等のプログラムの充実を図る。</p> <p>(参考指標) ・地域住民等を対象とした各種講演・講座等の開催状況(趣旨・回数・参加者数) (再掲：29)</p>	<p>[30] 地域住民等を対象に、健康・運動・子育て・まちづくりなど各種講演・講座を開講するコミュニティキャンパスおかやま等により、県内の自治体等と連携して地域のニーズに応じた地域貢献事業を推進した。 コロナ禍による制限を受け、地域連携事業の停滞があったものの、その際に実践したオンライン手法の活用により、遠方との連携の効率化を進めている。 今後も、地域連携に関わる学内シーズの掘り起こしを行うとともに、対面開催とオンライン開催を併用するなどして、地域連携に参加する教員の参加促進、連携テーマの拡充を進め、本学の資源を生かした地域貢献を継続する。</p>	3	3	

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
6 グローバル化に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	実績（令和元年度～令和4年度）及び 中期目標期間の終了時の見込み	法人 自己 評価	委員 会 評価	委員会参考意見																														
<p>[31] 国際交流の内容を精査し、今後に向けた国際交流協定校等との交流のあり方について検討を進め、必要に応じて見直すなどにより、国際交流協定校等との教育研究における交流の充実を図る。</p> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際交流協定締結校との交流実績(教育・研究) (上記実績を踏まえた)国際交流協定校等との交流内容の充実に向けた検討・見直し状況 	<p>[31] グローバル人材育成に戦略的に取り組むため、グローバル化を推進する組織体制の整備と業務の見直しを行った。 コロナ禍による活動が制限されたものの、オンラインで実施できるグローバル教育プログラムを企画・実施し、アフターコロナでの活用も見込んでいく。 今後は、整備した組織と交流方針により、戦略的な国際交流や教員・学生の活動支援、グローバル人材育成体制の構築を達成できる見込みである。</p>	3	3																															
<p>[32] グローバル化に対応したコミュニケーション能力を向上させるため、英語による講義・演習の充実等、主に実践的な英語力の修得を目指す教育を推進する。</p> <p>成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> TOEIC平均点の1年次から2年次への伸び幅(点) <table border="1" data-bbox="123 981 544 1086"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状(H28入学生の1年次→2年次)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伸び幅</td> <td>0.42</td> <td>5.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※第3期中期計画の期間において経過年度の平均値で評定 (2年目以降にTOEIC上位得点者数等に関する指標を設定)</p> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語による講義・演習の実施状況 	項目	現状(H28入学生の1年次→2年次)	目標	伸び幅	0.42	5.0	<p>[32] 中期計画初年度の入学後に英語力が低下している結果を受け、その原因の分析と改善策を講じ、単位要件にTOEIC L&R IPの点数を設定することで、2年目以降は成果指標を大幅に上回る成果が出た。 英語力や学習意欲が高い学生をさらに伸ばすための取組としてAdvanced classを開設し、より教育効果や学生のモチベーションを上げるための改善に取り組んできた。 今後も継続して全体の学生の英語力向上に取り組むとともに、海外留学や国際企業への就職を目指す学生にもAdvanced classへの参加を促し、英語に対するモチベーションのさらなる成長を図る。</p> <p>成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> TOEIC平均点の1年次から2年次への伸び幅(点) <table border="1" data-bbox="748 1129 1496 1209"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>目標</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伸び幅</td> <td>5.0</td> <td>△24.85</td> <td>39.88</td> <td>49.33</td> <td>35.3</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> TOEIC 550点以上取得学生の1年次から2年次への伸び幅(点) <table border="1" data-bbox="748 1241 1496 1321"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>目標</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伸び幅</td> <td>3.0</td> <td>—</td> <td>△1.15</td> <td>68.24</td> <td>12.69</td> </tr> </tbody> </table> <p>[評価時の観点] TOEIC L&R IPの1年次から2年次の伸び幅が目標を大きく上回っており、今後も継続できる見込みである。</p>	項目	目標	R1	R2	R3	R4	伸び幅	5.0	△24.85	39.88	49.33	35.3	項目	目標	R1	R2	R3	R4	伸び幅	3.0	—	△1.15	68.24	12.69	4	4	<p>学生の英語力を分析し、適切な改善策を講じることにより大きな成果を上げており、評価できる。</p>
項目	現状(H28入学生の1年次→2年次)	目標																																
伸び幅	0.42	5.0																																
項目	目標	R1	R2	R3	R4																													
伸び幅	5.0	△24.85	39.88	49.33	35.3																													
項目	目標	R1	R2	R3	R4																													
伸び幅	3.0	—	△1.15	68.24	12.69																													

- 第3 業務運営の改善及び効率化等に関する目標を達成するためとるべき措置
- 1 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置
- (1) 機動的かつ効率的な運営体制の構築に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	実績（令和元年度～令和4年度）及び 中期目標期間の終了時の見込み	法人 自己 評価	委員 会 評価	委員会参考意見
<p>[33]</p> <p>法人運営に関する共有意識を高めることにより、教職員のより一層の運営への参加を促すとともに、理事長(学長)のリーダーシップの下、内部統制システムの整備・強化により、業務の適正な執行を行う。</p> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> 法人運営に関する情報等の公表(及び共有意識の向上に寄与する取組の実施)状況 	<p>[33]</p> <p>毎年異なる業務分野でリスク洗い出し、評価に取り組んだ。想定外の入試業務の誤りに対しては、直ちに検証・再発防止ワーキンググループを設置し、体制の見直しを行った。4年間のモニタリングの結果から、業務の適正な執行が継続できる見込みであり、引き続き内部統制規程に基づくモニタリングを実施する。</p>	3	3	
<p>[34]</p> <p>全学の運営組織体制を経営的な視点を持って不断に検証し、見直すことにより効率的かつ効果的に大学を運営する。</p> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> 運営組織体制の見直し状況 	<p>[34]</p> <p>補正予算や当初予算を勘案しながら、第3期中期計画期間における収支見通しを随時更新し、財務状況の検証に取り組んだ。こうした取組を通じて、持続可能で安定的な財政運営に繋げることができている。収支見通しの更新、財務状況の検証等を継続し、効率的かつ効果的な大学運営に繋げることができる見込みである。</p>	3	3	
<p>[35]</p> <p>教職相互が大学運営上の目標や課題を共有し、教員と職員との協働性の向上を図りながら、課題解決のための教職協働の仕組みづくりと運用を進める。</p> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学内外の研修への参加状況 	<p>[35]</p> <p>職員として必要な基礎や専門的知識の習得のため、県や公大協等が実施する研修への参加を働きかけるとともに、その他学内で受講できる有益な研修の機会を提供し、職員の能力及び資質の向上を図った。引き続き、事務職員が積極的に大学運営に参画し、教員と職員との協働性の向上を図るため、必要に応じ事務局の組織体制の見直しを検討する。</p>	3	3	

中期計画	実績（令和元年度～令和4年度）及び 中期目標期間の終了時の見込み	法人 自己 評価	委員 会 評価	委員会参考意見
<p>[36]</p> <p>法人職員に求められる能力開発のため、人材育成方針を策定するとともに、専門性・企画立案能力等の向上を目指した個人の業務に関する目標管理・評価手法の見直しを行う。</p> <p>また、法人の将来を担う優秀な人材確保のため、他大学等での実務経験や専門的な資格を有する者の採用など、長期的な運営体制の構築を念頭に置いた計画的な職員採用に取り組む。</p> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> 法人職員の人材育成方針の作成と推進状況 	<p>[36]</p> <p>職員の標準職務遂行能力を定めるとともに、人事評価実施要綱を策定し、個人の業務に関する目標管理・評価手法を整備した。</p> <p>人材育成のため各種研修を実施するとともに、随時必要な業務の見直しを行った。</p> <p>引き続き、法人職員の人材育成方針等に基づき、キャリア形成に向けた取組を推進する。</p>	3	3	
<p>[37]</p> <p>学内の情報伝達や情報共有を、ICT環境を活用して機動的かつ効率的に行うことにより、意思決定や業務改善の迅速化を図る。</p> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT環境の整備・活用状況(情報セキュリティ対策の整備状況を含む。) 	<p>[37]</p> <p>ICT環境を活用した情報発信・共有のルール作り（ガイドライン）に取り組んだ。</p> <p>現在、学内ネットワークシステム更新を進めており、更新後のネットワークや各システムの運用実態を見極めた上での情報発信・共有ルールの見直しを計画している。</p> <p>[評価時の観点]</p> <p>4年間にガイドラインの策定、学内ネットワークシステム更新を進め、到達状況から中期計画終了時には学内ネットワークシステム更新まで達成できる見込みであるが、情報発信・共有のルールの見直しまでには至らない可能性がある。</p>	2	2	<p>学内ネットワークの更新を早期に完了できるよう取り組むとともに、第3期中期計画期間内に情報発信・共有ルールの見直しも完了できるよう取り組んでほしい。</p>

- 第3 業務運営の改善及び効率化等に関する目標を達成するためとるべき措置
- 1 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置
- (2) 地域に開かれた大学づくりの推進に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	実績（令和元年度～令和4年度）及び 中期目標期間の終了時の見込み	法人 自己 評価	委員 会 評価	委員会参考意見
<p>[38]</p> <p>市町村や県内企業等との連携を深めるとともに、設立団体である県との間で、地域課題の共有及び大学の発展と課題解決に向けた連携方策や県の重点施策に対応した大学の活用方策等を協議・調整する連絡協議会の設置等、法人の業務運営と県行政との連携を確保する。</p> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・COC+の活動状況 ・県との連携状況及び課題共有・検討体制の構築状況 	<p>[38]</p> <p>市町村等の課題解決に向けて講座等を行うコミュニティキャンパスおかやま等の連携事業を実施した。</p> <p>県施策推進連絡会議での本学研究シーズ説明、スタディミーティングでの研究・地域貢献活動の発表・意見交換を行い、県との連携を進めた。</p> <p>副専攻「吉備の杜」のクリエイター課程及びプロデューサー課程の実施を通じて、若者の地元就職と地域活性化に向けた取組を進めた。</p> <p>今後も、県や地域の自治体、企業等と協働して地域課題の解決や人材育成を進める。</p>	3	3	
<p>[39]</p> <p>UI(ユニバーシティ・アイデンティティ)戦略本部を設置し、本学の特色を生かした活動方針等を示したUI戦略を策定・推進することによりブランド力向上を図り、地(知)の拠点として地域に開かれた大学づくりを積極的に進める。</p> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・UI戦略の策定・推進状況 	<p>[39]</p> <p>UI戦略を検討する上での基本方針を策定し、本学の特色を生かしたコンテンツの制作は進んでいる。一方、柱となる本学のUI自体を明確化することは今後の課題である。</p> <p>開学30周年に向けた取り組みを通じて、コンテンツ制作の中から本学の特色を表す要素を積み上げることでUIを確立した上で、学外への周知、学内での意識統一を図り、その後の大学づくりやPRに活用することとしており、ブランド力の向上を進めることができる見込みである。</p>	3	3	
<p>[40]</p> <p>雇用形態の多様化など社会変化に対応するため、社会人の学び直しのためのリカレント教育を推進し、内容の充実を図る。</p>	<p>[40]</p> <p>副専攻「吉備の杜」の授業科目をリカレント教育として学外履修者を積極的に募集し、令和3年度は県内16の企業・団体から48名(延71名)、4年度は18の企業・団体から83名(延121名)と多くの社会人が受講した。</p> <p>令和5年度からは副専攻の大学院科目を拡充し、さらなるリカレント科目の充実を進めるとともに、リカレント教育を持続可能な体制を整備できる見込みである。</p>	3	3	

第3 業務運営の改善及び効率化等に関する目標を達成するためとるべき措置
 2 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置
 (1) 自己収入の増加に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	実績（令和元年度～令和4年度）及び 中期目標期間の終了時の見込み	法人 自己 評価	委員 会 評価	委員会参考意見																		
<p>[再掲：26] 企業・団体等との連携研究により、産業界の発展に寄与する研究交流を充実するため、共同研究費等の獲得に向けた支援を行う。</p> <p>成果指標 ・地域の企業・団体等との共同研究費・受託研究費・教育研究奨励金の獲得状況(合計)(千円)</p> <table border="1" data-bbox="123 703 571 810"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状(H24-H29 年度平均)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>金額</td> <td>86,600</td> <td>100,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>※金額を到達基準とする</p>	項目	現状(H24-H29 年度平均)	目標	金額	86,600	100,000	<p>[再掲：26] 共同研究等推進のための教員シーズの広報活動として、OPUフォーラムにおける研究シーズ展示、産学官連携ガイドの発行、県産業労働部の技術シーズ集への情報提供、イノベーションジャパンへの出展、県研究機関協議会研究交流発表会への出展等を積極的に行った。 本学の発行する研究シーズ集については、従来の冊子体からCDとし、さらにwebへの掲載とすることにより可搬性を高めた。 教員に対して外部資金獲得促進アンケートを行い、共同研究等を行いたいが実施できてない教員を中心にフォロー体制を確立した。 アクティブ・ラボについて、従来の企業等訪問のみを対象としていた体制から、企業等の来学訪問やオンラインでの実施も取り入れ、共同研究等のきっかけとなる機会の創出を促した。 コロナ禍の影響により、共同研究等の件数、金額は大きく低下したが、研究シーズの発信、アクティブ・ラボを進めることで、共同研究等を目標に近い件数まで回復できる見込みである。</p> <p>成果指標 ・地域の企業・団体等との共同研究費・受託研究費・教育研究奨励金の獲得状況(合計)(千円)</p> <table border="1" data-bbox="748 1045 1482 1126"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>目標</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>金額</td> <td>100,000</td> <td>82,620</td> <td>70,004</td> <td>44,932</td> <td>69,211</td> </tr> </tbody> </table>	項目	目標	R1	R2	R3	R4	金額	100,000	82,620	70,004	44,932	69,211	3	3	研究シーズの発信やアクティブ・ラボの推進など積極的な営業活動に取り組み、共同研究費等の獲得につなげてほしい。
項目	現状(H24-H29 年度平均)	目標																				
金額	86,600	100,000																				
項目	目標	R1	R2	R3	R4																	
金額	100,000	82,620	70,004	44,932	69,211																	
<p>[41] 円滑かつ発展的な大学運営のために、外部研究資金等により自己収入増を図る。</p>	<p>[41] 外部研究助成事業の公募情報のメール配信やウェブサイトへの掲載により応募を促し、外部資金獲得の増加を図った。 科学研究費助成事業では、計画書の提出前検討会（外部業者による添削）や計画書作成勉強会等の申請支援を定着させ、積極的な申請の促進と採択率の向上に努めた。 コロナ禍での科学研究費採択率の低下を受け、その原因調査と今後の向上策を検討するとともに、引き続き各種支援を継続し、研究費獲得による自己</p>	3	3																			

中期計画	実績（令和元年度～令和4年度）及び 中期目標期間の終了時の見込み	法人 自己 評価	委員 会 評価	委員会参考意見																		
<p>成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 科学研究費補助金獲得額(千円) <table border="1" data-bbox="120 323 555 432"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状(H24-H29 年度平均)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>金額</td> <td>84,111</td> <td>85,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>※第3期中期計画の期間において、経過年度の平均値で評定</p>	項目	現状(H24-H29 年度平均)	目標	金額	84,111	85,000	<p>収入の増加を図る。</p> <p>成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 科学研究費補助金獲得額(千円) <table border="1" data-bbox="745 371 1480 451"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>目標</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>金額</td> <td>85,000</td> <td>78,130</td> <td>90,661</td> <td>88,270</td> <td>79,118</td> </tr> </tbody> </table>	項目	目標	R1	R2	R3	R4	金額	85,000	78,130	90,661	88,270	79,118			
項目	現状(H24-H29 年度平均)	目標																				
金額	84,111	85,000																				
項目	目標	R1	R2	R3	R4																	
金額	85,000	78,130	90,661	88,270	79,118																	

- 第3 業務運営の改善及び効率化等に関する目標を達成するためとるべき措置
 2 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置
 (2) 運営経費の見直しに関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	実績（令和元年度～令和4年度）及び 中期目標期間の終了時の見込み	法人 自己 評価	委員 会 評価	委員会参考意見
<p>[42] 各種事業について、費用対効果を踏まえ、縮小・廃止を含めた事業見直しを実施するとともに、重点及び新規事業についても、実施後の効果検証を行い、効果的・効率的な実施に努める。</p> <p>(参考指標) ・事業の見直し状況(運営体制の改善等を含む。)及び重点・新規事業の効果検証の状況</p>	<p>[42] 事業一つ一つについて、効果や効率性を踏まえ、選択と集中による歳出の重点化に取り組んだ。また、要求上限枠を設定することにより縮小・廃止を含めた事業内容の見直しを促進した。 これらの取組を継続し、教育研究等の質の向上や地域貢献の一層の充実を図ることとしている。</p>	3	3	

- 第3 業務運営の改善及び効率化等に関する目標を達成するためとるべき措置
 3 自己点検及び評価に関する目標を達成するためとるべき措置
 (1) 評価の充実に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	実績（令和元年度～令和4年度）及び 中期目標期間の終了時の見込み	法人 自己 評価	委員 会 評価	委員会参考意見
<p>[43] 教育研究の質の充実を図るとともに、教育研究活動の透明性を高めるため、大学機関別認証評価を見据えた教育研究に関する内部質保証体制を確立し、適切かつ効率的な自己点検・評価を行う。</p> <p>(参考指標) ・大学機関別認証評価に係る自己評価書の作成・公表</p>	<p>[43] 学修成果の把握と可視化、それらに基づく教育研究活動を改善する体制は完成し、教学マネジメント指針に則り、内部質保証活動により入試、教育支援、学生生活支援の充実を図った。これらを点検評価ポートフォリオに反映した。</p> <p>令和5年度に受審する認証評価での指摘に対応することにより、アセスメントプランの見直しと内部質保証体制のさらなる強化が進む見込みである。</p>	3	3	
<p>[44] 現行及び平成33(2021)年度以降のディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)、カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)及びアドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)の実施状況に関する指標に対応する組織的な教育の自己点検・評価を着実に実施するため、IR(インスティテューショナル・リサーチ)活動の充実を図る。</p>	<p>[44] 教学マネジメント指針に則り作成公表したアセスメントポリシーに従って、方針に基づいた自己点検・評価を、IRデータの分析結果に基づいて実施し、入試、教育支援、学生生活支援の改善に生かす体制は、期間中変遷を繰り返しながら内部質保証体制として確立し、IRデータの分析結果の公表も行った。</p> <p>認証評価での指摘事項を踏まえ、引き続き、IRデータに基づいた改善を実施する体制のさらなる充実を進める。</p>	3	3	
<p>[45] 教員の教育・研究・社会貢献・管理運営の各業務に対する意欲・資質向上のため、教員の個人評価の運用に当たっては、評価後の効果を見極めながら、より効果的な評価制度となるよう指標等の不断の見直しを行う。</p> <p>(参考指標) ・教員評価の結果公表</p>	<p>[45] 教員個人評価により、教員の自己点検による意識改革の促進や教育研究活動の活性化等を図るとともに、教員個人のさらなる動機づけと教育研究の質の向上のため、評価方法の見直しを行った。学部学科や専門分野、職名等の実情に沿った評価点等の変更、評価者等の意思疎通に向けた面談などを取り入れ、より良い評価手法とすることができた。</p> <p>引き続き、見直し後の評価方法等について、教員からの意見を集約するなど、制度のさらなる改善に取り組む。</p>	3	3	

第3 業務運営の改善及び効率化等に関する目標を達成するためとるべき措置

3 自己点検及び評価に関する目標を達成するためとるべき措置

(2) 情報公開の推進に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	実績（令和元年度～令和4年度）及び 中期目標期間の終了時の見込み	法人 自己 評価	委員 会 評価	委員会参考意見
<p>[46] 教育研究活動や業務運営全般に係る学内審議会・委員会の審議結果に加え、審議過程の情報を積極的に公開する。</p>	<p>[46] 役員会、教育研究審議会、経営審議会について、遅滞なく審議過程の情報を含め公開している。 引き続き、審議過程の情報を含め、積極的な公開に努める。</p>	3	3	
<p>[47] 地(知)の拠点として地域社会に開かれた大学づくりのため策定するUI戦略に基づき、広報体制を強化するとともに、県のみならず各種広報媒体への掲載協力を得るなど、各種広報ツールを活用し、本学の魅力について、より一層周知を図る。</p>	<p>[47] デジタルツールのニーズが高まっている社会情勢を踏まえ、大学広報のメインである大学案内とウェブサイトのリニューアル、広告的な用途を想定したPR動画の制作等、計画的に広報ツールの強化・改善を行った。また、情報発信の件数の増加から、広報に対する意識が徐々に高まっていることが確認できた。 引き続き広報ツールの見直し、広報体制の強化を進めるとともに、令和5年度に迎えた開学30周年を機にした積極的なPRにより、全国へ本学の魅力発信や認知度の向上が見込まれる。</p>	3	3	<p>大学案内やウェブサイトのリニューアルなど広報ツールの見直しを進め、広報体制の強化を図っており、評価できる。</p>

- 第3 業務運営の改善及び効率化等に関する目標を達成するためとるべき措置
 4 その他業務運営に関する目標を達成するためとるべき措置
 (1) 施設及び設備の適切な維持管理に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	実績（令和元年度～令和4年度）及び 中期目標期間の終了時の見込み	法人 自己 評価	委員 会 評価	委員会参考意見
<p>[48] 施設の老朽化等の安全管理に関する課題解決のため、必要な改修・修繕を実施するとともに、学生のみならず教職員が安心して学び働ける快適な環境を確保するため、教室・執務室をはじめ、空調や衛生設備の充実、運用時間等の見直しを図る。</p>	<p>[48] 岡山県から大規模修繕補助金を受けて、空調設備整備、保健福祉学部棟エレベータ、給排水・排水処理設備、高圧受変電設備等の整備を行った。 今後も的確な予算要求を行い、財源の確保に努め、施設の老朽化への対応と設備の充実を進める。</p>	3	3	

- 第3 業務運営の改善及び効率化等に関する目標を達成するためとるべき措置
- 4 その他業務運営に関する目標を達成するためとるべき措置
- (2) 安全・安心な教育研究環境の確保に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	実績（令和元年度～令和4年度）及び 中期目標期間の終了時の見込み	法人 自己 評価	委員 会 評価	委員会参考意見
<p>[49]</p> <p>学内全体での危機管理・安全衛生の強化並びに人権擁護及び法令遵守の意識の共有を図り、研究者倫理遵守や各種ハラスメントなどの人権侵害防止等に努めるとともに、不測の事態に適切に対応できるよう責任体制の明確化と想定訓練の実施などに組織的に取り組む。</p> <p>成果指標</p> <p>・危機管理対応マニュアルの作成・試行運用の状況</p>	<p>[49]</p> <p>既存の危機管理ガイドラインに沿って、項目ごとに個別の危機管理対応マニュアルの作成を進めており、労働災害、ハラスメント等の項目について作成、運用を開始した。</p> <p>期間中に必要性が生じた「新型コロナウイルス感染症対応マニュアル」を作成し、緊急性の高い危機に対応することができた。</p> <p>全学部において授業や実験時に活用する「安全の手引き」を作成した。</p> <p>今後は、危機管理対応マニュアルの適切な運用を図る。</p>	3	3	
<p>[50]</p> <p>災害や事故等に適切かつ迅速に対応することができるよう、学生や教職員に対する教育や研修・訓練を推進するとともに、安全管理及び災害等を想定した防災体制の充実を図る。</p> <p>成果指標</p> <p>・災害対応マニュアルの作成並びに学生及び教職員への周知</p> <p>(参考指標)</p> <p>・防災に関する研修・訓練の実施状況</p>	<p>[50]</p> <p>既存の危機管理ガイドラインに沿って、項目ごとに個別の災害対応マニュアルと施設・危険物等に関するマニュアルを作成し、それらの運用や防火・防災訓練の実施を通じて、防災意識啓発を行った。</p> <p>引き続き、防災意識啓発を積極的に推進し、安全管理及び災害等を想定した防災体制の充実を図る。</p>	3	3	

(注 記)

法人自己評価欄の評点が 2 点又は 4 点 の場合、「実績状況欄」にその評価の考え方を「評価時の観点」として記載している。

[評価時の観点]

例 〇〇での〇〇の〇〇等により、〇〇〇〇〇の合格率100%が達成できた。

4 中期目標期間終了時に見込まれる業務の実績に係る項目別評価結果表

項 目		公立大学法人岡山県立大学自己評価					岡山県地方独立行政法人評価委員会評価						
		R1	R2	R3	R4	中期見込	R1	R2	R3	R4	中期見込		
大項目評価	第2 大学の教育研究等の質の向上		④	④	⑤	④	⑤	④	④	⑤	④	⑤	
評点平均値			2.9	3.0	3.2	3.0	3.2	2.9	3.0	3.2	3.0	3.2	
最小項目別評価	1教育	(1)教育内容の充実	1	3	4	4	4	4	3	4	4	4	4
			2	3	4	4	3	4	3	4	4	3	4
			3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
			4	2	2	4	2	3	2	2	4	2	3
		(2)教育方法の改善	5	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
			6	4	4	3	4	4	4	4	4	3	4
			7	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
			8	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	2学生の確保		9	4	3	3	4	4	4	4	3	4	4
			10	2	3	3	3	3	2	3	3	3	3
			11	2	2	4	3	3	2	2	4	3	3
			12	3	3	2	3	3	3	3	3	2	3
	3学生の支援	(1)学習支援の充実	13	2	3	3	3	3	2	3	3	3	3
			14	4	3	3	3	3	4	3	3	3	3
			15	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
		(2)生活支援の充実	16	4	3	3	4	4	4	3	3	4	4
			17	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
			18	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
		(3)就職支援の充実	19	3	4	4	3	4	3	4	4	3	4
			20	3	4	4	4	4	3	4	4	4	4
	21		2	2	4	2	3	2	2	4	2	3	
	4研究	(1)研究の充実	22	2	2	4	3	3	2	2	4	3	3
			23	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
		(2)多様な研究活動の展開	24	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
			25	4	4	2	3	3	4	4	2	3	3
	(3)研究成果の還元	26	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	
		27	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
	5地域貢献	(1)地域連携教育の充実	28	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
			再4	2	2	4	2	3	2	2	4	2	3
		(2)地域貢献活動の充実	29	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
	6グローバル化		30	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
			31	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
		32	2	3	4	4	4	2	3	4	4	4	

項 目				公立大学法人岡山県立大学自己評価					岡山県地方独立行政法人評価委員会評価				
				R1	R2	R3	R4	中期見込	R1	R2	R3	R4	中期見込
大項目評価	第3 業務運営の改善及び効率化等			④	④	④	④	④	④	④	④	④	④
評点平均値				2.8	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	3.0	3.0	2.9	2.9
最小項目別評価	1 業務運営の改善及び効率化	(1)機動的かつ効率的な運営体制の構築	33	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
			34	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
			35	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
			36	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
			37	2	3	2	2	2	2	3	2	2	2
		38	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
		39	3	3	4	3	3	3	3	4	3	3	
	(2)地域に開かれた大学づくりの推進	40	2	2	3	3	2	2	3	3	3	3	
		再26	3	2	2	2	3	2	2	2	2	3	
	2 財務内容の改善	(1)自己収入の増加	41	2	4	4	2	3	2	4	4	2	3
		(2)運営経費の見直し	42	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
	3 自己点検及び評価	(1)評価の充実	43	3	4	3	3	3	3	4	3	3	3
			44	2	3	3	3	3	2	3	3	3	3
		45	3	3	3	4	3	3	3	3	4	3	
		(2)情報公開の推進	46	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
	4 その他業務運営に関する目標	(1)施設及び設備の維持管理	47	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
48			3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
(2)安全・安心な教育研究環境の確保		49	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
		50	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	

中期目標期間終了時見込み評価における評価基準及びその判断目安等

最小項目別評価	評点	評価基準
	4	中期計画を十分に達成
	3	中期計画を概ね達成
	2	中期計画をやや未達成
	1	中期計画を未達成

大項目別評価	評点	評価基準	判断の目安※
	⑤	中期目標を十二分に達成	3.1以上
	④	中期目標を十分に達成	2.7以上3.0以下
	③	中期目標を概ね達成	2.3以上2.6以下
	②	中期目標をやや未達成	1.9以上2.2以下
①	中期目標を未達成	1.8以下	

※原則、当該大項目に係る最小項目別評価の評点の平均値（小数点以下第2位四捨五入）で区分する。